



THE 69th
KOCHI ART FESTIVAL

KOCHI

ART FESTIVAL

2019

9.14^{sat.} ~ 12.15^{sun.}

令和元年度第69回高知県芸術祭

事業実施 報告書

県民の文化芸術活動を、支援・発信していきます。

The 69th
Kochi Art Festival

Come on!



THE 69th
KOCHI ART FESTIVAL

KOCHI



第69回高知県芸術祭事業実施報告書

発行日 令和2年3月23日

発行 高知県芸術祭執行委員会
高知市高須353-2(公益財団法人高知県文化財団)
TEL 088-866-8013 FAX 088-886-8008

印刷 筒井紙業印刷株式会社
高知市石立町158 TEL 088-831-6569

令和元年度 第69回高知県芸術祭 事業実施報告書

The 69th
Kochi Art Festival

目次

第69回高知県芸術祭を顧みて 高知県芸術祭執行委員会 委員長 新納 朋代	1
第69回高知県芸術祭概要	2
第69回高知県芸術祭プレイベント 「ハーバード大学クロコディロス2019高知公演」実施報告	4
助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2019」 募集要項・選考結果・実施報告・事業報告会	7
第48回高知県芸術祭文芸賞 募集要項・応募状況等・入選作品一覧	40
文化人交流事業「大前光市 トーク&パフォーマンス」実施報告	43
共催行事	44
協賛行事	48
＜資料＞ 共催・協賛行事参加申請書 高知県芸術祭執行委員および文芸賞審査員名簿	56

芸術祭とは

芸術祭＝広く県民が芸術に親しみ、
高知の芸術文化の魅力を再発見、
発信する期間



第69回高知県芸術祭を顧みて

高知県芸術祭執行委員会 委員長 新納 朋代

今年で69回目を迎えました、『高知県芸術祭』は、広く県民が芸術に親しみ、高知の文化芸術の魅力を再発見、発信する期間として毎年秋に開催しております。

今年度は、9月14日(土)～12月15日(日)を会期として設け、約3か月にわたり、主催事業『文化人交流事業』『高知県芸術祭文芸賞』をはじめ、県内の文化芸術団体にご参加いただき、共催行事21行事、協賛行事46行事、助成事業『KOCHI ART PROJECTS』13事業の計82の行事が実施されました。

6月28日(金)～30日(日)には、本祭に先立ち、プレイベントとしてハーバード大学ア・カペラ男声合唱団による『ハーバード大学クロコディロス2019高知公演』を開催いたしました。28日には、『高知県立高知国際中学校』を訪問し、生徒と英語を使ったゲームなどを行い交流しました。生徒にとってもアメリカを代表する名門大学の生徒との触れ合いは、世界で活躍する人材になる将来に向けての貴重な経験になったのではないかと思います。29日、30日には、『オーテピア』と『県立牧野植物園』で公演を行いました。曲目の中には、皆が知る日本の曲や聴衆を巻き込んだパフォーマンスもあり、多くの県民の方々に楽しんでいただけたのではないかと思います。

共催・協賛行事に関しましては、県立施設の休館、団体の高齢化なども影響し、参加団体・行事ともに減少がみられました。当執行委員会といたしましても、引き続き、多くの文化芸術団体の皆さまにご参加いただけるよう、広く呼びかけを行い、県内の文化芸術団体の発展に協力してまいりたいと思います。

今年で6年目となりました、助成事業『KOCHI ART PROJECTS』では、23の団体・個人よりご応募いただき、審査の結果、16事業への助成を決定致しました。しかしながら、台風の影響により中止、延期となった事業もあり、最終的には13事業の開催となりました。少しずつではありますが、助成金の認知度も上がり、応募団体にも増加が見られます。また、採択事業においても、事業内容の向上が見られ、より多くの地域で質の高い事業が開催されております。来年度以降も、より充実した内容の事業を県内の文化芸術団体の皆さまが企画・運営していけるよう、執行委員会・事務局としても協力してまいります。

12月2日(月)には、文化人交流事業として『大前光

市 トーク&パフォーマンス』を開催いたしました。日本のみならず、世界でも活躍されている、義足のバレエダンサー大前光市氏を講師にお迎えし、「誰にでも輝ける場所がある」をテーマに講演いただきました。会場には、ダンスを習われている方も多く訪れ、真剣な眼差しで話に聴き入っている姿が印象的でした。アンケートでも約90%の方より「たいへんよかった」と回答をいただき、非常に満足度の高い催しとなりました。

また、文芸の総合的な公募型文芸賞である、「高知県芸術祭文芸賞」は、48回目を迎え、今年も短編小説・詩・短歌・俳句・川柳の5つの部門で実施いたしました。応募総数は1,591作品と増加し、応募人数では568人と2割近くの増加となりました。今年も幅広い年代の方々にご応募いただき、学校や学生個人からの応募も数多くありました。幅広い年代の方々が文学に興味を持ち、文芸賞に挑戦してくださることは、大変喜ばしいことです。私どもとしましても、引き続き高知県内の多くの方々に、文芸賞への応募を呼び掛けるなど、高知県の文芸の振興に寄与してまいりたいと考えております。

本報告書では、令和元年度高知県芸術祭の成果をまとめております。各所よりご意見をいただきながら、より一層広報を充実させ、多くの県民に『高知県芸術祭』を承知いただけるよう、高知県芸術祭執行委員会・事務局共に一丸となり努めてまいりたいと思っております。今後とも、より一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【事業数・参加人数】

助成事業「KOCHI ART PROJECTS」:13事業・10,274人
主催事業「大前光市 トーク&パフォーマンス」:298人
「高知県芸術祭文芸賞」:568人(1,591作品)
共催行事:21行事・78,821人
協賛行事:46行事・64,290人
プレイベント「ハーバード大学クロコディロス2019高知公演」
(6/28、29):1,130人
高知県立高知国際中学校・高知西高校での交流及びコンサート
(6/27):1,022人

第69回高知県芸術祭 概要

《今年度の芸術祭を振り返って》

平成から令和へ時代が新しく変わった2019年、高知県芸術祭は69回目を迎えました。

高知県芸術祭では、近年メインイベントとしてクラシックコンサートを開催しておりますが、今年度はプレイベントとして、ア・カペラ男声合唱団『ハーバード大学クロコディロス2019高知公演』を行い、本祭期間中には、文化人交流事業として『大前光市 トーク&パフォーマンス』を開催いたしました。両事業とも、初めての試みで、事務局としては会場の確保や各所との打ち合わせ、広報などに苦労しました。

助成事業「KOCHI ART PROJECTS」も6年目となり、県内への周知も広がり、応募・採択事業ともに内容の充実が見られております。引き続き、県内文化芸術団体の活動の一助となる助成制度となるよう、事務局としても協力していく所存です。

また、共催・協賛行事では、ここ数年参加団体・行事共に減少しております。多くの団体さまに高知県芸術祭をご周知いただき、ご参加いただけるよう、高知県芸術祭をより一層盛り上げる為、努力してまいりたいと思います。

48回目を迎えた『高知県芸術祭文芸賞』では、昨年度より応募者数が増え、小学生の受賞もございました。12月15日に行われた表彰式では、受賞者の皆さんをはじめ、同席されたご家族の方々の嬉々とした表情が印象的でした。

象的でした。来年度もより多くの方々に「応募したい！」と思っていただけるような賞を目指していきます。

来年度は、第70回目の記念すべき年となります。県民の皆さまにお楽しみいただける芸術祭を創出するべく、いくつかの企画を準備しております。ご期待ください。

本報告書では、芸術祭主催事業（文化人交流事業・文芸賞）、助成事業「KOCHI ART PROJECTS」、芸術祭共催・協賛行事、プレイベントについて、報告を記載しております。是非、ご高覧ください。



開催期間 令和元年9月14日(土)～12月15日(日)
主 催 高知県・公益財団法人高知県文化財団
主 管 高知県芸術祭執行委員会
後 援 NHK高知放送局・高知新聞社・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・KCB高知ケーブルテレビ・エフエム高知

第69回高知県芸術祭 日程表

- 4月25日 「KOCHI ART PROJECTS 2019」募集チラシ・要項 発送（募集締切 5月31日）
芸術祭参加団体募集のご案内 発送（募集締切 8月21日 ※芸術祭公式ガイドブック掲載希望分 締切：7月3日）
- 6月14日 第1回高知県芸術祭執行委員会およびKAP審査会（高知県立美術館・2階会議室）
- 6月20日 第48回高知県文芸賞作品募集チラシ 発送（募集締切9月30日）
- 6月23日 「KOCHI ART PROJECTS 2019」二次審査会（高知県立美術館・2階会議室）
- 6月28日 プレイベント『ハーバード大学クロコディロス2019高知公演』※6月30日迄

〈議題〉

- (1) 平成30年度文化芸術振興ビジョン推進事業収支決算について
- (2) 「KOCHI ART PROJECTS」過去3回採択団体の取り扱いについて

〈報告事項〉

芸術祭の進捗状況について ※執行委員会終了後、KAP一次審査会を開催

- 8月21日 芸術祭公式ガイドブックおよびチラシ兼ポスター 発送
- 9月1日 『「塩の道の歌」楽曲・動画制作プロジェクト』(KAP助成事業)※11月8日迄
- 9月13日 第2回高知県芸術祭執行委員会（高知県立美術館・2階会議室）

〈議題〉

「KOCHI ART PROJECTS 2019」助成事業の視察について

〈報告事項〉

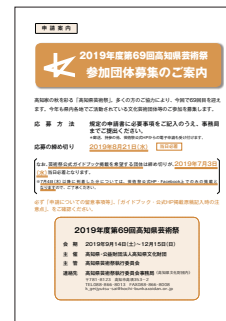
- (1) 共催、協賛行事の参加状況について
- (2) 芸術祭広報について
- (3) 今後の日程について

- 9月14日 第69回高知県芸術祭開幕
『なはり古民家Art&Live2019』(KAP助成事業)※9月29日迄
- 9月26日 『原典版「ロミオとジュリエット」～Shakespeare Ensemble 高知公演～』(KAP助成事業)※本公演は9月28日
- 9月28日 『八畝AutumnFesta2019』(KAP助成事業)
- 10月5日 『地域魅力創出映画「泣きたくなったら、ここにおいで」映画制作と上映 映画音楽コンサート』(KAP助成事業)※12月15日迄
- 10月16日 第48回高知県芸術祭文芸賞審査会（高知県立美術館・2階会議室）※10月27日迄（内、5日間）
- 10月17日 『香北にアートを生む～古民家でのアーティスト・イン・レジデンス Vol.2～』(KAP助成事業)※11月10日迄
- 10月20日 『ツノチャ・マルシェVol.4』(KAP助成事業)
- 11月3日 『旧立川番所書院 華の祭典 ～美と響きの格調高く華やかな共演～』(KAP助成事業)
- 11月8日 『映画「絵金の息吹」上映イベント
二人芝居「絵金縦遊伝」高知公演 までの道のりを追ったドキュメンタリー!』(KAP助成事業)※11月9日迄
- 11月12日 『イノビエンナーレ(令)』(KAP助成事業) ※12月1日迄
- 11月17日 『冬の夏祭り25回記念プロジェクト「赤岡でらこや」』(KAP助成事業)※12月8日迄(内、3日間)
- 11月23日 『いっとひょう沈下橋アートプロジェクト』(KAP助成事業)
- 11月30日 『高知・神戸演劇協働制作プロジェクト「行き止まりの通走曲」』(KAP助成事業)※12月1日迄
- 12月2日 文化人交流事業『大前光市トーク&パフォーマンス』
- 12月15日 第69回高知県芸術祭閉幕
第48回高知県文芸賞表彰式（高知県立文学館・文学館ホール）

令和2年

- 1月26日 助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2019」事業報告会（高知ぢばさんセンター・2階会議室1）
- 3月24日 第3回高知県芸術祭執行委員会（高知県立美術館・2階会議室）

注）KAP … KOCHI ART PROJECTS



第69回高知県芸術祭プレイベント 「ハーバード大学クロコディロス2019高知公演」

現役ハーバード大学の学生によるア・カペラ男声合唱団「クロコディロス」が6月28日に初来高しました。クロコディロスはハーバード大学最古のア・カペラグループで巨匠故レナード・バーンスタインが絶賛した歌唱力で知られております。毎年夏休み期間中に行われるワールドツアーに選抜されたメンバーは12人。今年は15か国26都市を回るツアーのため、大きなスーツケースの他、たくさんの荷物を抱えた彼らと高知龍馬空港で合流しました。20歳前後の彼らは真っ直ぐな瞳で背筋もピンと伸び、事前に拝見していた写真よりもずっと大人びて見えました。5月31日にハワイからスタートした約3か月にわたる長期ツアー。その疲れを微塵にも見せずにつこりとあいさつをし、空港の自動ドアを出る際には「お先にどうぞ」と言わんばかりにジェスチャーをしてくださいました。招聘元の（一財）生涯学習開発財団の事務局長さまと共に「台湾は湿度が高く暑かったけれど、日本は涼しい」など他愛のないことを話しながら移動のためバスに乗りました。

29日と30日の公演の会場となるオーテピアと県立牧野植物園の下見の後、副知事表敬訪問のため、県庁へと向かいました。岩城孝章副知事に向け、2曲を披露。副知事は「素晴らしい歌声ですね」と賞賛したのち、「平成30年に開館したばかりのオーテピアとリニューアルした県立牧野植物園でぜひ、高知を盛り上げてほしい」と述べました。



表敬訪問の後、県立高知国際中学校へと向かいました。この日は県立高知西高校の開校記念日で、国際中学の生徒の皆さまとクロコディロスの学生で合唱し、サプライズで高校生の皆さまに歌のプレゼントをする計画をしていたのです。国際中学校の先生方の提案により、曲は『Michael, Row The Boat Ashore』に決定し



ておりました。教室にて中学生の皆さまと交流・合唱の練習・コンサート、アリーナでは高校生へのサプライズ合唱・ミニコンサートがここの流れでした。交流は中学生が10人につきクロコディロスの学生1人の12グループに分けて行われました。自己紹介から始まりミニゲーム（ジェスチャーゲーム）や文化、学校生活について話し合うというものです。国際中学校の生徒の皆さまと、アメリカで暮らすクロコディロスのメンバーは会話や交流ができるのか、ということは正直不安ではありました。しかし、生徒の皆さまは最初こそ緊張した面持ちではありましたが、交流が進むにつれ緊張がほぐれるとすぐに打ち解けておられました。各グループとも先生の手助け等もほとんどなく、楽しく会話やゲームを楽しんでおられる様子だったため、大変驚いたのを覚えています。合唱の練習も、この日初めて合わせたものとは思えないほど、最初から形になっていました。練習を重ねながら、音楽監督のグレゴリー・リブソン氏が発声のアドバイス等を加え、より素晴らしいものとなりました。後日、交流に関するアンケートで中学の生徒さまからの「上手に話せなかったけど、大学生が目を見て一生懸命話を聞いてくれた」という意見



が少なかったのです。他にも「言葉ではなかなか伝わりにくかったりもしけれど、ジェスチャーを加えることで分かってくれた」、「分らなかったところもあるけど、アメリカの文化や大学生生活、歌の発声のしかたを知れて楽しかった」など。決して流暢な英語ではなかったかもしれませんが、伝える英語力よりも、伝えたいと思う気持ちの強さや理解しようとする姿勢、歌の力が言葉の壁を崩してくれた。そんな瞬間を私は目の当たりにできたような気がいたします。その後の高校生へのサプライズ合唱では、アリーナが美しく優しい歌声に包まれ、最後は大きな拍手が響いておりました。お別れの際には、先生方や多くの生徒さまが手を振り「また来年もぜひ来てください」という言葉とともにお見送りいただきました。とても貴重で良い交流ができたと感じたことです。

29日はオーテピア1階のエントランスホールから始まり、2階のこども読書コーナー、帯屋町金高堂書店本店前スペース、5階高知みらい科学館展示スペース、閉館後は2階共同楽習スペースにて計5回の公演を開催いたしました。前日に交流した国際中学校の生徒さまも何人か来ていただいております。『SUKIYAKI』（上を向いて歩こう）や『Can't Take My Eyes Off of You』など馴染みのある曲もあり、会場は手拍子や笑顔に包まれました。また、客席の中から1人女性をステージ上へ招き、パフォーマンスを交えながら『What's your name?』を歌うと客席は大変盛り上がりを見せておりました。小さなお子様からご年配の方まで、各公演延べ人数ではありますが少なくとも100人以上の方々が彼らのア・カペラに足を止めたのです。立ち見公演にもかかわらず（オーテピアでは椅子の用意がありました）、これだけ多くの方々にお集まりいただけたことは

大変驚きでした。公演が終わると、小さなお子様「楽しかった」と話しておられたり、「次は何時からですか?」とお問合せをいただいたりと、反響もすぐ良かったです。中には彼らと写真を撮る方もいっしょり、会場で販売したクロコディロスのCDは3回目の公演（@帯屋町金高堂書店本店前スペース）終了時には完売となり、楽しんでいただけたようで我々も嬉しく思いました。

休憩時間に彼らの控室へ差し入れをお持ちした際、控室の外で4年生のヘンリー・ブルックス氏が椅子に座ってテキストのようなものを集中して読んでおられました。招聘元の事務局長さまによると「彼は就職するための試験がツアー後にあるから、それに向かって勉強を頑張っている」と。他にも長期のツアーのため、夏休みなどにご両親に会う時間も取れなかったり、勉強等の時間の確保が大変であったり。様々な背景が彼らにあることを知ったと同時に、限られた学生生活の中でわざわざ高知まで来て、素晴らしい歌声とパフォーマンスを披露していただいているのだと改めて感謝をしたことです。





最終日の30日は県立牧野植物園本館の映像ホールにて公演を2回開催しました。天気はあいにくの雨で来場者数が心配されましたが、両公演100人以上の方々にお集まりいただきました。中には、「1回目がとても良かったからまた観たい！」と両公演とも聞いていかれた方もいらっしゃいました。ここでは『SUKIYAKI』はもちろんのこと、この2日間披露されていなかった『花は咲く』を歌い、会場を感動へと包みこみました。第1回の公演終了後は販売したグッズ(Tシャツ)も完売となり、ここでも本公演の満足度の高さがうかがえたことでした。

この3日間で、延べ人数ではありますが2,000人以上の方々クロコディロスの素晴らしい歌声をお届けでき、国際的な文化芸術に触れる機会の架け橋となれたことを嬉しく思います。大盛況のうちに幕を閉じることができたのは、ひとえに本公演に携わった全ての方々のおかげです。心より感謝を申し上げます。

最後に余談ではありますが、副知事表敬訪問の際に岩城副知事が「高知県は食に関する都道府県魅力度ランキングで1位を取ったこともあるくらい、地元ならではの美味しい食べ物がたくさんあるので是非楽しんでみてください」と述べていました。その言葉通り、クロコディロスのメンバーは3日間の食事の中でもかつおのタタキが大変気に入られた様子で「Bonito!」と美味しそうに召し上がっておられました。ワールドツアーでたくさんの国や地域を巡る中でも、「高知県は食事が美味しかった」と思い出に残していただけたなら、我々も県民として大変うれしく思ふばかりです。

(文責:川久保果鈴)

■公演日・会場

令和元年6月29日

オーテピア/帯屋町 金高堂書店本店前スペース

令和元年6月30日

高知県立牧野植物園(本館映像ホール)

■延べ観覧者数

令和元年6月29日(土)

オーテピア

9:00~:100人/11:00~:150人/17:00~:170人

/18:10~:200人

帯屋町 金高堂書店本店前スペース

13:00~:300人

令和元年6月30日(日)

高知県立牧野植物園

10:00~:110人/11:00~:100人

■高知県立高知国際中学校・高知県立高知西高校の生徒及び教職員数

交流:中学生120人/教職員12人

コンサート:高校生840人/教職員及び聴講生50人



助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2019」

募集要項

募集要項	
対象となる活動	2019年度高知県芸術祭開催期間中に実施されるもの 開催期間/2019年9月14日(土)から12月15日(日) 営利を目的としないもの
審査項目	- 創造性/新たな視点や他分野・異業種との協働など事業内容に創意工夫がみられるか。 - 地域性/地域の課題解決に向け、地域住民(組織等)と連携するなど地域への貢献や地域の活性化に繋がる計画がみられるか。 - 持続性/一過性のイベントではなく、将来のビジョンや長期的展望がみられるか。 - 波及性/県民や団体等に幅広く情報発信を行うなど、事業を通じて人々の交流を促進する計画がみられるか。 - 実現性/事業実施に向けて具体的な事業計画がみられるか。また、申請書等の提出書類の不備がないか。
支援内容	助成/ 1事業あたり上限額30万円 ※少額(10万円程度)での申請も可能です。 ※審査会にて、提出された申請内容と申請書類を審査し助成額を決定いたします。 ※過去に助成を受けたことのある団体も応募できます。 ※(本助成事業は、県内の文化芸術活動に繋がる団体等の裾野を広げることを主な目的としており、過去に3回以上助成を受けたことのある団体については、不採択となる可能性もございます。ご了承ください。)
支援条件	広報物等に指定クレジットを必ず記載すること。(記載のない場合は助成交付を取り消す場合があります。) ※指定クレジットは、芸術祭公式サイトホームページからダウンロードできます。 事務局が作成する広報物等への原稿作成協力ができること。 支出経費について領収書を保管のうえ、提示があった場合にはすぐに提出できること。 ※助成団体については、領収書を求め支出の詳細について確認を致します。 指定の様式により実績報告を提出すること。(事業終了後1ヶ月以内。) ※採択された事業は高知県立芸術祭執行委員会が実施します。 後日開催予定の事業実施報告会に必ず参加すること。(2020年1月26日(日)開催予定) ※報告会参加に伴う旅費等の費用は各自で負担ください。
応募方法	募集期間内に、規定の申請用紙に必要事項を記入し、高知県芸術祭執行委員会事務局まで持参、もしくは郵送にてご提出ください。 ※申請用紙は、芸術祭公式サイトホームページからもダウンロードできます。 ※申請用紙と併せて必要書類は、下記問い合わせ先までご送付ください。 ※応募後、電話等によるキャンセルは、追加費用の発生を要する場合があります。 ※過去に採択団体の実施報告等は芸術祭公式サイトホームページに記載しております。申請にあたってご参考ください。
募集締切	2019年 5月31日(金) ※当日必着(持参の場合は、17時まで)
選考方法	書類選考による一次審査を行い、通って二次審査会にて代表者等の出席のもとプレゼンテーションを行っていただき選定します。 (2019年6月23日(日)開催予定) 結果は二次審査会後、一週間以内に郵送にてお知らせいたします。 ※一次審査のみで採択となる可能性もございます。
助成金の交付	所定の請求書提出後2週間以内に、指定口座に振り込みます。 ※申請額において必要と認められた場合に限り、助成決定額の2分の1を超えない範囲で概算払も可能です。
申請書等郵送先	〒781-8123 高知県高知市高須353-2 (公財)高知県文化財団 内 高知県芸術祭執行委員会事務局 宛

「KOCHI ART PROJECTS 2019」に関する問い合わせ先

☎ 088-866-8013 FAX / 098-866-8008 受付時間/平日 9:00 ~ 17:00

〒781-8123 高知県高知市高須 353-2 (公財) 高知県文化財団 内 高知県芸術祭執行委員会事務局

公式ホームページ / <http://www.kochi-art.com/> フェイスブック / <https://www.facebook.com/kochi.art/>

選考結果

23団体・23事業応募、16団体・16事業選定 ※内、3事業中止

事業実施報告 ※原則として、事業終了後に提出された実施報告書をもとにしています。 ※順番は、公式ガイドブック掲載順です。

地域魅力創出映画「泣きたくなったら、ここにおいて」 映画制作と上映 映画音楽コンサート

団 体 名: COMFA(コムファ)

開催期間:【ワークショップ】令和元年7月～令和2年7月

【撮影・上映会】令和元年10月5日(土)～12月15日(日)

会 場 名:【ワークショップ】Chu Chu Man-Café 他

【撮影・上映会】①須崎市立市民文化会館(大会議室) ②高知市メフィストフェレス
③東京吉祥寺planet K他

入場者数:【撮影・上映会】①(1公演)210人 ②(4公演)165人 ③(5公演)275人



事業の内容

第47回高知県芸術祭文芸賞短編小説文芸奨励賞受賞作品「泣きたくなったら、ここにおいて」を約50分の劇場用映画作品として制作。高知県須崎市の浦ノ内湾と市営巡航船、鳴無神社を舞台にオリジナルストーリーを用いて地域の魅力を創出しました。映画は高知県内だけの上映に留まらず、東京での上映と、映画の主人公であり、歌手の渡辺かおるが歌う3曲の挿入歌のライブも各地で開催し、映画の総合芸術性を表現し高知県の新しい魅力を多くの方々に認知していただきました。

成果・反響

高知県民(須崎市民)も認知していなかった浦ノ内や横浪半島の景観や市営巡航船の魅力を映画を通して知ることができたとの反響が大きかったです。東京では、今までの知っている高知県の風景ではなく、市営巡航船や鳴無神社など文化や歴史、伝説を知り旅したいとの声も多かった。反響としては、主人公の関東エリアで年間70回近いライブをこなす歌手で俳優経験のある渡辺かおるさんを起用したことも東京上映の会場を満席にした要因だと考えます。また、音楽監督として映画の音楽、挿入歌を作詞作曲監督された伊藤心太郎さん(恋するフォーチュンクッキー作曲者)にお願いしたことも名曲を生み出し、音楽の評価が非常に高かった成果であると考えます。

助成を受けたことによってできたこと

今回の作品は、映画制作だけではなく、この映画作品を活用して、映画の上映会やテーマ曲のライブ演奏会も行い、総合的な芸術手法でより広い地域に発信することになりました。そのため、音楽ライブを含めた上映会において、ポスターやチラシなどに助成事業の文字があるだけで、高知県の芸術振興のための作品であることが周知できました。また、本年度高知県で開催されます全国高等学校総合文化祭の放送や映画、演劇などに携る高校生や先生方にもワークショップからご参加いただいたり、試写会にご参加いただいたりなど高校生の映像制作や文化活動にも助成事業の印象が高く将来自分たちの活動にも活用したいとの声がありました。

今後に向けて

①2/22,23高知蔦屋書店主催上映 19:00 20:15 上映 その他4月以降 東京、名古屋、大阪など上映 ②国内映画祭応募 金沢映画祭 埼玉SKIP映画祭(実行委員兼任)、ゆうばり国際映画祭 ③海外映画祭応募 ロサンゼルス国際短編映画祭 ドイツオルデンブルグ国際映画祭 英国リース国際映画祭 ※上記①②は上映決定ではなく応募(エントリー)いたします。決まりましたらご報告いたします。④高知県観光コンベンションとこれから協議し海外における観光支援の目的で上映場所などヒアリングします。⑤次回作に向けての準備 次年度映画祭助成事業に向けての準備をいたします。

(助成額:30万円)



「塩の道の歌」楽曲・動画制作プロジェクト

団 体 名: 塩の道の歌楽曲・動画制作委員会

開催期間:【制作】令和元年9月1日(日)～11月30日(土)

【お披露目会】令和元年11月8日(金)

会 場 名:【お披露目会】グレース浜すし(南国市大浦甲1504-8)

入場者数:【お披露目会】134人(招待客、スタッフ含む)



事業の内容

観光素材、歴史遺産である「土佐塩の道」を、新たに文化、芸術の観点から発信。豆電球の「塩の道の歌」をベースに、観光PRだけでなく、歴史やそこに関わる保存会のメンバーの活動や思いを軽快なダンスも取り混ぜて表現。誰もが口ずさみ、踊りたくなるような映像作品を制作。また、今後の展開に向けて、美琴が唄うカバーバージョンを作った。

成果・反響

思った以上に楽しかった、完成度が高い、地域の教育の現場で子どもたちに観賞させたい、福祉施設などで流してレクリエーションとしてダンスを踊りたい、など観光効果だけでなく、身近な地域の現場で活用したいというお声をいただきました。

助成を受けたことによってできたこと

保存会はボランティアの任意団体であるため、活動資金に余裕がない。今回、補助金を活用することで、楽曲、動画を制作することができて、県内外に(SNSに繋がると世界まで)、土佐塩の道を発信、PRすることができたこと。

今後に向けて

今回楽曲、動画を制作して、「地域のレクリエーション活動の場で歌いたい、踊りたい」との反響が多かったので、今後はダンスレクチャー動画を制作したり、今回叶わなかったアニメーションで市の道をPRできる動画の制作にチャレンジしていきたい。

(助成額:30万円)



なはり古民家Art&Live2019

団 体 名: なはり浦の会

開催期間:【古民家Art】令和元年9月14日(土)～9月29日(日)

【古民家Live】令和元年9月22日(日)

【アートクラフトフェア】令和元年9月22日(日)～9月23日(月・祝)

会 場 名:【古民家Art】高田屋・旧野村茂久馬邸・増田屋・濱田家住宅・西尾家・藤村製絲・なはりの郷

【古民家Live】濱田邸

【アートクラフトフェア】奈半利町活性化センター

入場者数:3,700人

事業の内容

①登録有形文化財を活用した現代アート展覧会・ライブ。②出展アーティストによる中学校でのワークショップ。③出展アーティストによる一般を対象にしたワークショップ。④弊会が毎年小学生を対象に開催している登録有形文化財を題材にした絵画コンクール『お宝をかこう展』の同時開催。⑤作る側と見る側が直接繋がる事を目的とするアートクラフトショップ。

成果・反響

《アンケートより意見・感想一部抜粋》

- ・この田舎では本物を見る機会が少ないので楽しく拝見できました。
- ・全部を回ってスタンプを押したらだんだん回りたくなくて、そのお家の方の説明とか楽しく（静かに一人見るのも良いです）元気になって帰れます。楽しかった。
- ・日本家屋のなつかしさ新鮮さを感じました。

助成を受けたことによってできたこと

助成を受けた事によりこれまで3回開催させていただき、毎回内容を発展させる事ができた。特に本年は、子どもに芸術に触れる機会・学ぶ機会を設けられた事は、非常に大きな意義がある事だった。これまでの2回の開催でこの企画が町・学校にも認知され、受け入れられた為であろう。子ども達の作品は決して上手な作品ではなかったかもしれないが、奈半利町では日常的に芸術に触れる機会はないので、この様な場が子ども達にとって非常に大切である。古民家Art&Liveでは、古民家と芸術を融合させる事により、新しい芸術の可能性・関係人口拡大・交流人口の拡大・経済効果・教育・アイデンティティの構築など様々な可能性が生まれた。

今後に向けて

これまでの3回は助成をいただけた事により、来場された多くのお客さんだけでなく、多くの出展者にも非常に喜んでいただけた。そして毎回、次回を待望する声を沢山いただいている。企画・運営は大変な事も多いが、そんな声をいただき大きな意義を感じて開催させていただいた。しかし、今後の開催に当たっては資金は大きな課題であり、そこをクリアできれば発展どころか開催も危ぶまれる。この様な催しは決して運営費を賄える事はないので、どうかこの内容・意義を理解してくださる団体等にご支援いただき今後も開催していきたい。（助成額：30万円）

**原典版「ロミオとジュリエット」～Shakespeare Ensemble 高知公演～**

団体名：原典版「ロミオとジュリエット」実行委員会

開催期間：【ワークショップ】令和元年9月26日（木）

【本公演】令和元年9月28日（土）

会場名：【ワークショップ】高知県立大学永国寺キャンパス

【本公演】ゆすはら座

入場者数：【ワークショップ】17人 【本公演】181人

**事業の内容**

17世紀当時の英語・演出を再現した上演で定評のあるイギリスの劇団Shakespeare Ensembleの「ロミオとジュリエット」公演を、県内唯一の木造芝居小屋ゆすはら座にて行った。また、公演に先立ち、劇団員による「シェイクスピアの世界：身体で学ぶワークショップ」を高知市内で実施した。ワークショップには17人、本公演には181人の参加があった。

成果・反響

《ワークショップ感想より一部抜粋》

- ・激しい動きはしていないがすごく動いた感じ、普段はしない動き。最後のマクベスのシーンは力のバランスが可視化された感じ。参加者の方とも楽しく一緒に共有できた。
- ・気持ちが明るく軽くなった気がする。
- ・ノンバーバルという環境が入りやすかった。居心地がよかった。

《本公演感想より一部抜粋》

- ・椿原という土地のすばらしい建物で貴重な体験が出来たと思います。

・客席と舞台がとても近く、息遣いまで聞こえるほどの贅沢な時間でした。

助成を受けたことによってできたこと

【経済的な面で成果】

劇団員の3泊4日分の滞在費支出が可能になり、事前ワークショップを実施することができた。安価なチケット料金で提供することができた。高知市内から梶原町までの往復バスを提供することができたため、集客人数を増やすことができた。託児サービスを設置することができた。

【その他】

助成事業であり、高知県芸術祭の関連事業であることが、集客増につながった。大学の行事として実施するのではなく、本助成事業として実施することで、Shakespeare Ensembleと高知とのつながりを広くアピールすることができた。

今後に向けて

再び今回のような劇団招致をすることができるかどうかは分からないが、劇団主宰のベン・クリスタル氏からは、また高知でワークショップ（特に若年向け）などを実施したいとの意向が得られた。今回の公演で初めてゆすはら座の存在を知ったという参加者も多かったようで、演劇関係者の間で、ゆすはら座の知名度が上がったのではないかなと思う。観客からは「またぜひこのような企画をして欲しい」との声が得られた。

（助成額：30万円）

**八畝AutumnFesta2019**

団体名：八畝AutumnFesta実行委員会

開催期間：令和元年9月28日（土）

会場名：長岡郡大豊町八畝

入場者数：一般34人 れいほく博17人 住民24人

**事業の内容**

「むら全体が劇場」をコンセプトに、例年の棚田野外上演『銀河鉄道の夜』に加えて、地区住民のお宅をお借りしての上演『隣の母』、村のランドマークである乳イチョウそばのお堂での嶺北高校吹奏楽部による演奏を実施した。その上で、地区の方々に協力頂き、焼きび焼酎「八畝」とともに地元の郷土食を頂く交流会を実施した。

成果・反響

過去のイベントと比較しても概ね好評であった。今回は高知市内だけでなく、東京、大阪、愛媛、四万十町など高知市近辺以外からの参加が多くあり、リピーターの参加者も多く、ますますの活動の広がりを感ずることが出来た。残念ながら、前後の雨の影響もあり、当日が稲刈りの最盛日に重なったため、八畝集落をはじめとする地域の皆さんの来場が前回より少なくなった。しかしながら、れいほく博と繋がったこともあり、最後の棚田での上演では愛媛からの来場者が増えた。単なる外部者誘致のイベントではなく、地区に還元されたイベントとなっていくよう今後も試行錯誤を重ねたい。

助成を受けたことによってできたこと

イベント実施に関わる現地打ち合わせを複数回行うことができ、円滑な運営を行うことができた。また、夕闇の中での棚田演劇『銀河鉄道の夜』では貴財団の助成を活用して照明・音響を設置することができた。これにより、棚田の暗闇を生かした幻想的で幽玄の雰囲気か漂う演劇を実施することができ、観客に非常に好評であった。

今後に向けて

4年目を実施するにあたり、やはりいちはば経費のかかる部分は照明・音響を整えることとそれを仕込むための建設資材のレンタル料にある。あとは参加費による収入と手弁当で何とかクリアできる範囲にあるが、今後その経費をどのように捻出するかが大きな課題である。地域の皆さんから寄付金を募ることも考えたが、多くが年金暮らしで慎ましい生活をされているのが現状であるため、それも適切と思えず、継続に向けて今後も検討していきたい。

（助成額：20万円）



旧立川番所書院 華の祭典 ～美と響きの格調高く華やかな共演～

団体名:立川番所保存会

開催期間:令和元年10月12日(土)→延期 11月3日(日・祝)

会場名:旧立川番所書院(長岡郡大豊町立川下名28-1)

入場者数:122人

事業の内容

国重要文化財「旧立川番所書院」を舞台に、和太鼓奏者の佐藤秀嗣氏による演奏を中心とした1時間30分のステージを実施。内30分については、土佐の伝統芸能とのコラボレーションとして太鼓、三味線等の楽曲に併せて創作舞踊を披露。

互いに高め合う芸術の素晴らしさを表出し、土佐の伝統芸能と一流の演奏の共演で国重要文化財「旧立川番所書院」に相応しい格調高い美の感動を伝えた。

成果・反響

当イベントは、これまで町内の来場者が多かったが、当日、町民文化祭があった影響で、町外の方が多かった。創作舞踊を目当てに来場した客が多く、注目を引いた企画であったと思われる。当団体の目的である多くの方に立川番所を知っていただくことができたことは成果と言える。また、多くの来場者から公演について高い評価をいただけたことは良かった。

助成を受けたことによってできたこと

国重要文化財である旧立川番所書院を利用した音楽イベントを実施することができた。当該イベントは、H23年度から始まり9回目を迎えるイベントであるが、毎年、演者に係る経費や舞台設備等に係る経費の確保に苦慮するところである。助成を受けることで、太鼓と伝統芸能をコラボするイベントが開催できたことや内容を充実することができた。

今後に向けて

次年度以降は入場料を有料とするなど、運営費を捻出できる仕組みを検討し、持続可能な運営を目指す。

(助成額:20万円)



ツノチャ・マルシェVol.4

開催期間:令和元年10月20日(日)

会場名:津野町かわそ自然公園(高岡郡津野町永野251-1)

入場者数:約3,000人

事業の内容

津野町の特産品であるお茶を、町内外の若い人にもっと知って楽しんでいただくため、ただの試飲販売ではない、さまざまな角度からお茶を感じてもらえる空間づくりを行った。

会場内では、オリジナルの試飲カップを買ってもらうことで、11カ所のつの茶ブースで試飲を楽しめ、直接農家と触れ合うこともできる。また、お茶を炒ってマイほうじ茶づくりを楽しむコーナーや、お茶を購入した方限定で、トウクトウクやお茶をテーマにしたメリーゴーランドに乗車できるコーナーを設置。さらに、お茶にまつわる様々な雑学を展示し、読んで学んでもらうことも行った。



成果・反響

《アンケートより感想一部抜粋》

- ・色々な種類の津野茶が飲めて、美味しい物も食べられて、とても楽しかった。またの機会があれば来たい。
- ・ライブもあってロケーションも良かった。また来たいです。
- ・限定コップ来年は500個作成してほしいです！買えなかった(泣)。来年も楽しみにしています。

助成を受けたことによってできたこと

今回の助成金を活用できたことで、アーティストによるメリーゴーランドを設置することができ、多くの子どもが楽しめる空間づくりができた。また、体験をお茶の購入者限定にしたこともあり、農家からお茶の売り上げが昨年よりも大幅に上がったという声もあった。テーマを特産品のお茶にしたこともあり、たくさんの方が津野町の特産品を理解し、感じて帰っていただくことができた。

今後に向けて

実行委員の負担に偏りがあり、中心的に動ける人員が不足。もっと地域の方にイベントの効果を広め、共感していただくことで関与人数を増やす。

また、これから多くさんの町外の人に来て満足してもらえるよう、課題に一つ一つ取り組む。

(助成額:30万円)



香北にアートを生む ～ 古民家でのアーティスト・イン・レジデンス Vol.2 ～

団体名:AiRLite Kochi

開催期間:令和元年10月17日(木)～11月10日(日)

会場名:AiRLite Kochi(香美市香北町永野207)

入場者数:約230人

事業の内容

AiRLite Kochi(エアライト高知)は香北町に現存する築150ほどの古民家と蔵を拠点に自然豊かな香北に根ざしたユニークな事業(アート×地域振興)を目指す地元有志の団体です。今回のプロジェクトでは、さらにアートの広い世界を体感してもらえるように海外在住のアーティスト入江飛鳥氏を招聘し、ワークショップやアーティストトークを開催し、香北でアートに触れる機会を創出します。

成果・反響

〈入江飛鳥×大宮スクスクの会×AiRLite Kochiで共同開催した10/19「アーティスト入江飛鳥さんとアート座談会に参加して頂いた方々から頂いた感想です。〉

『アーティストの飛鳥さんは、とてもシャイな方で、チャームング。作品を通して自身を表現されています。私の中になかなか無い感覚ですが、アートに対する色々な方のお話を聞き、自分の中の何かが騒つく感覚、刺激、穏やかさ、対する何か。。。言葉にはできませんが、引き込まれたものでした。』

『アートを通して子どもたちも自分らしく表現できたなら素敵なことだなあと私は思いました!』

『飛鳥さん、すごくナチュラルな方で、作品で内なるものを表現されてるのなあ、なんて思いました。きっと誰しもが何かを持っていて、それを表現できた人がアーティストというか、表現者というか。導く人というか。自分もまだまだこれから表現をしたい、と思うものの、可能性がいっぱい、時間もいっぱいある若い子、子どもたちにそんな刺激を受ける機会がもっとあれば良いなあ、と。これから生きていくのに楽しみや希望、目標が増えたらそれはそれは素晴らしいだろうなあ、と理想ばかりですが、そんなことを考えたりしました。』

『人それぞれ、個性ってすごい事だし大事にしたいなあと感じました。』



助成を受けたことによってできたこと

遠方(アメリカロサンゼルス)からアーティスト入江飛鳥氏を呼ぶことができた。3週間の滞在の中で、制作、展示、座談会、ワークショップ、オープニングレセプションを行い、地域の方々はもちろん県外からも参加者が訪れ、交流する機会を作ることができた。展覧会や催しをお知らせするチラシをデザイナーに発注し、作家の雰囲気や展覧会のイメージに合った、質の高い広告物を作ることができた。

今後に向けて

子供達とのワークショップを開催した事で、アートを通して表現することを特別な非日常の活動としない為にもこのような活動が継続的に必要であると強く感じ、アート教室を定期に行うことにしました。(助成額:30万円)



映画『絵金の息吹』上映イベント 二人芝居「絵金縦遊伝」高知公演 までの道のりを追ったドキュメンタリー！

団 体 名: 宵晴レ座

開催期間: 令和元年11月8日(金)～11月9日(土)

会 場 名: メフィストフェス(高知市帯屋町2-5-23 2F・3F)

入場者数: 99人

**事業の内容**

絵金を題材にした舞台だけを行う劇団「宵晴レ座(よいばれざ)」の、2017年11月に高知県香南市赤岡町・弁天座で上演された「絵金縦遊伝」の芝居公演は、高知だけではなく県外からも多くのお客様に観て頂き、好評を博しました。その制作過程から、稽古、幾度にも渡る土佐探訪を、地道な努力と体当たりでずっと追いかけて、撮影・編集したドキュメンタリー映画「絵金の息吹」(一澄アヤメ監督)が完成しました。絵金の人生のターニングポイントを巡り、幕末の絵師・金蔵と土佐の絵画文化をもっと知ってもらおうというコンセプトで、高知市からはじまる上映会ツアーを組みました。絵金の人生をなぞるように、生まれた城下町(高知市)、若くして狩野派を学んだ江戸(東京)そして、農作事件の後、放浪の末にたどり着いた上方(大阪、神戸)を巡り、最後は2020年1月に絵金が芝居絵屏風を大成させた赤岡・弁天座でフィナルを迎えます。その記念すべきスタート地点である、高知市開催の上映イベントに関して、2019年度の助成事業として開催いたしました。映画だけでなく、ライブ・芝居・講演・アート作品展示と、見どころ満載の複合イベントとなりました。

成果・反響

非常に興味を持った、感動したというお声を沢山の方々から頂戴しました。

メディアに携わる方々(テレビ高知、エフエム高知、高知新聞)も「個人的に」観たいと思い、来てくれました。本当に観に来てよかったと嬉しい感想を頂きました。赤岡からもツアーを組んで来て下さいました。今回、はじめて出会うお客様方も概ね、喜んでくれました。また芝居本篇を是非、高知で観たいという声も大変多かったです。絵金と河田小龍に関係を初めて知った方や、土佐の祭礼と芝居絵屏風についてより一層興味を持たれた方が非常に多く、質問も沢山受けました。また、来場者同士の交流があちこちで見られたことが、主催者としては本当に嬉しく思いました。

助成を受けたことによってできたこと

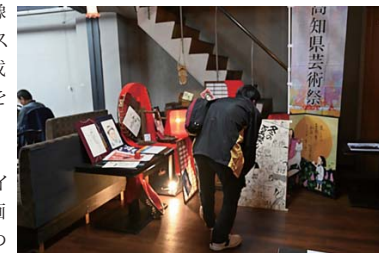
高知出身者が関係者に多いとはいえ、宵晴レ座の活動拠点は東京なので、やはり交通費・宿泊費がネックになります。なるべく最小の人数に絞って少数精鋭で来ておりますが、高知までの渡航費、高知内での移動費、そして宿泊費と、

助成金を頂かなかつたら費用面のマイナスは大きくなったでしょう。また、PRのための高知への渡航や、高知市メフィストフェスで高品質のものを見せるための整音作業や、その他映像に関わる機材なども助成がなければ厳しかったことでしょう。ゲスト出演者への謝金もありますので、常に厳しい状態でしたが、助成金を頂き、苦しいながらも前向きに考え行動でき、イベント自体を成功させることができたことは大変ありがたく思っております。

今後に向けて

絵金を中心に土佐の祭礼と絵画文化について、さらに広く捉えたイベントを行いたいと考えています。また、今回の映画は今後も映画祭などに出品をしていきますので、高知以外の場所でも絵金について広めていけたらと思います。

(助成額:30万円)

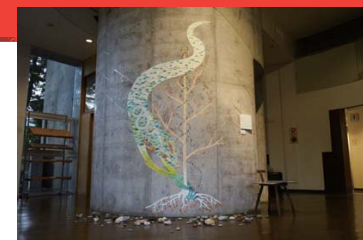
**イノビエンナーレ(令)**

団 体 名: イノビ実行委員会

開催期間: 令和元年11月12日(火)～12月1日(日)

会 場 名: いの町紙の博物館、いの町商店街周辺の古民家、
空き家、倉庫など8会場

入場者数: 【企画部門】236人 【公募部門】1,367人

**事業の内容**

イノビエンナーレは高知県のいの町を舞台とした地域アートイベントです。公募部門イノビ・アワードは場所や人の日常的なクリエイティブのヒントになるような作品を、年代、ジャンルを問わず高知県内外から広く募集し展示します。企画部門イノビ・オーダーは平面・立体・写真・映像など様々な分野のアーティストが、いの町商店街周辺の古民家、空き店舗、倉庫などの会場で、会期中に作品展示やパフォーマンス、ワークショップなどを繰り広げます。

成果・反響

前回までと比べ、他県、国外からの作家や美術関係者が多く来場してくれた。非常に喜ばしい一方で、「高知県芸術祭」「ビエンナーレ」というワードを頼りに、国際展「岡山芸術交流」を観た流れで来場した方は規模感等に困惑していたので、事業名や説明文言について今後再考したい。今回、企画部門イノビオーダーを金土日3回の週末開催にしたが、一部で日程が分かり難いという意見があった。公募部門イノビアワードについては、運営を引き継いで2回目の開催となり、独自の公募展になるよう努めているが、集まった作品は多種多彩でイノビの独自性が見えてきたといった意見を多く耳にした。企画展イノビオーダーは、地域との関わりが薄れているといった意見もあったが、アートマネジメント講座ゲストの小出淳也氏は面白いと言ってくださり、今後も続けるようアドバイスをいただいた。

助成を受けたことによってできたこと

- ・これまでで最多の県外作家参加となった。
- ・毎回課題となる県外作家の滞在宿泊スペースを確保でき、1ヶ月間や半月間、長期に滞在制作する作家を受け入れられた。
- ・展示作家以外にも、クロージングイベントのパフォーマーを台湾から、公募展ゲスト審査員を県外から招聘できた。
- ・展示会、イベントのそれぞれのキャプションなど細かな部分にも手がまわせた。

今後に向けて

前回に引き続き、公募部門と企画部門の二つの展覧会に加え、今回は関連イベントを多く行い、充実した内容になった。

しかし、スタッフ不足など課題も見えてきたので、来年度までに運営体制を見直したい。

会期中、町内で行われた他の事業との連携などで、本事業の拡張性を感じた。

今後、国際展や大規模な地域アートイベントとは別の方向で、イノビの独自性を追求し、地域にアートをインストールしたい。

(助成額:30万円)



いっとひょう沈下橋アートプロジェクト

団体名:松葉川青年団

開催期間:令和元年11月23日(土・祝)

会場名:米の川城ハナ公園(一斗俵沈下橋たもと)

(高岡郡四万十町米奥84)

入場者数:200人



事業の内容

- ・プロデューサーの元、県内外のアート関連大学生による周辺地域のリサーチと聞き取り
- ・リサーチをもとに作品制作:窪川高校によるキャンパス作品、高知在住アーティストによる造形作品2点、映像作品、高知工科大生によるmap、秋田の大学生によるかっぱ新聞
- ・イベント日に3つのツアーとお絵かきワークショップの実施:地元小学生による周辺案内、窪川高校生による作品案内、松葉川青年団による夜の作品案内

成果・反響《一部抜粋》

リサーチについて

県内外大学生による新たな視点のリサーチによって、大学生と地域の年配者との交流が持たれ、地元出身の青年団員も知らない情報を集めることができました。結果として青年団の中で地域の歴史を集約するような活動を行う機運が高まりました。

作品製作について

作品製作の補助のために、アーティストと地元の製材屋さん、アーティストと地元の小学生との間で交流が生まれました。

イベント直前および当日について

小学生に沈下橋や四万十川などを紹介するツアーを行ってもらいました。あらかじめ宿題として地域の魅力を大人にインタビューしてもらい話し合ってもらった内容を盛り込んだため、「こどもたちのかわいい案内がよかったです。」「松葉川の良いところ(自然など)が知れてよかった。」「こどもがカワイイ!受付班が仕事ができる。」「(いずれもアンケートより)こどもたちの自信と誇りに繋がるツアーになったと思います。

助成を受けたことによってできたこと

今回助成を受けプロデューサーへの依頼を行うことができたため、青年団員のみでは出会わなかった県外大学の大学生、県内のアーティストの参画を実現することができました。また、そこから大学生の補助によって年齢の近い地元窪川高校の生徒にスムーズにプロジェクトの参加をお願いすることができました。



今後に向けて

子どもや学生、若い世代を巻き込んだイベントを実現したことで、松葉川地域全体として外部から人やことを受け入れる可能性が広がりました。リサーチの際に話にあがった物語をもとにしたアート作品(虚構新聞)を見たことで物語の続きを地域で考えようという動きが出たり、地域の資源を見直す機運が高まっているため、さらに外部と地域が深く関わりながら作品を作る動きを作っていきたいと思います。

(助成額:30万円)

高知・神戸 演劇協働制作プロジェクト「行き止まりの遁走曲(フーガ)」

団体名:蛸の階

開催期間:令和元年11月30日(土)~12月1日(日)

会場名:蛸蔵(高知市南金田28)

入場者数:180人(1回目58名、2回目61名、3回目61名)

事業の内容

大阪を拠点に活動し、これまでに多くの受賞歴を持つ劇作家・演出家、久野那美と、高知において舞台公演を手がける制作者、吉田剛治が中心となり「蛸の階」を結成。

高知と関西それぞれで活動を続ける俳優とスタッフが集い、高知と神戸という海に面した2つの街をテーマにした演劇作品「行き止まりの遁走曲」を制作・上演しました。

成果・反響

「どこからも遠い場所にある」街の港公園の最後の一日に集う登場人物。「行き止まり」「書ききれない報告書」「本物とニセモノ」「伝説」と印象的な台詞が劇中に散りばめられ、鑑賞者それぞれが登場人物の背景を想像するような、これまでの高知では上演したことのないテイスト作品で、舞台の構成や音楽の要素など、アンケートでは好評をいただきました。

助成を受けたことによってできたこと

2つの地域の表現者が集い、長期間に渡って稽古を重ねるため、通常の公演と比較して移動や滞在にかかる費用が膨大になってしまい、入場料収入だけでは本事業を実現することはできなかったと思います。

また、私達が行うプロモーション活動に加え、芸術祭の1プログラムとして、県内全域に公演情報を届けていただいたことは、取り組みを周知する点でも非常に重要であったと思います。

今後に向けて

本公演に関わった高知の表現者やスタッフは、大きな刺激を受け、経験を積みました。引き続きこれからの活動において、今回の経験を活かした作品づくりに取り組みたいと思いますし、今回できた関西の表現者との繋がりを、さらに広げていきたいと思っています。

そしてまずは、2020年2月に神戸で上演する本作品のさらなるブラッシュアップに励みます。

(助成額:30万円)



冬の夏祭り25回記念プロジェクト『赤岡てらこや』

団体名:冬の夏祭り実行委員会

開催期間:令和元年11月17日(日)、12月7日(土)、12月8日(日)

会場名:冬の夏祭り会場(香南市赤岡町横町商店街)

入場者数:約100人

事業の内容

「まちのおんちゃん、おばちゃんから教えてもらいたいことがある。まちの若いもんに伝えちよきたいことがある。」赤岡ならではのものを習うのが、『赤岡てらこや』。そして、赤岡の人が「今、知りたい、学びたい」を習うのが、『赤岡てらこや』。てらこやを開催し、赤岡の歴史や文化、伝統産業、郷土料理などを継承していく。将来的には冬の夏祭りの仲間(特に若者)を増やしたい。

成果・反響《一部抜粋》

楽しかった。先生からも参加者からも楽しかったの声をもらい、企画した自分たちも楽しかった。楽しいと、人は集まるし、またやりたいと思う。そうやって続けていければいいかなとも思う。また、25年続けてきた、少しマンネリ化してきた祭りに、新しいメニューが加わった。

助成を受けたことによってできたこと

『赤岡らしいことを学ぶ』『まちの人から』『自分たちが学びたいことを学ぶ』プラス『赤岡らしいやり方で学ぶ』など、やりたいと口にしてはいたけれど、なかなかできずいたことが、助成を受けたことによって実現できた。そして、今後も続けていこうという機運になった。

今後に向けて

今回教えてくれた先生方からも「またやろう」という言葉をもらっているし、こんなことを学びたいという声も上がっているので、続けて企画していく。大変だけど、祭りでも続けて、今回からまた一歩ブラッシュアップしてやれば良いと思う。また、これをきっかけに、冬の夏祭りに関わってくれる仲間を増やしていきたい。

(助成額:20万円)



ライブと演劇のタベ@立岡二号栈道『ギンガテツドウの夜』

団体名:中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会

開催期間:※台風接近の為、中止

会場名:立岡二号栈道(旧魚梁瀬森林鉄道施設 国指定重要文化財)

事業の内容

中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会主催による「ゆずとりてつイルミ@立岡二号栈道『銀河鉄道の夜』」と同日開催の演劇と歌のライブ。

成果・反響

《来場予定者の声》

開催問い合わせやチケットを返金する際に、



「楽しみにしていました」

「めげずに必ずやってください」

「中芸地域を盛り上げてほしいので期待していました」

「(他のイベント主催者より)取り組みに感化され、私たちも頑張ろうと勇気もらいました」

《実行メンバー・協力者・ボランティアスタッフの声》

「中芸の住民が一緒になって取り組んだ企画が少なかったのも、良い機会になった」

「中止は悔しい。やっていたらこれまでにない中芸一体感になっていたかも」

助成を受けたことによってできたこと

①出演料がまかなえた(予定だった)ので、3日間の開催で、6組の出演者に依頼ができ、にぎやかなライブができるとイメージしていた。

②「高知県芸術祭」のパンフレットやポスターにより、県内全域に周知ができた。

③後援申請を「高知県芸術祭」でしてもらえたので(KUTV・さんさんテレビ以外)、メディアへのPR活動がしやすかった。

④「高知県芸術祭」のほかの採択団体のアイデアの素晴らしさ、取り組みに感化された。

今後に向けて

①ライブは難しいと思うが、「ゆず型ランプ」を使用した中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会主催によるイルミネーションイベントは今年度中に実施を計画中。そこで、実行メンバー・協力者・ボランティアスタッフで取れた連携を生かしたい。

②イベントタイトルを「ライブと演劇のタベ@立岡二号栈道『ギンガテツドウの夜』」と「@」の後には、魚梁瀬森林鉄道の18物件の遺構が今後来るように想定。毎年「@●●隧道カフェ」や「@●●橋」などと続けられるよう、活動を続けていきたい。

(助成額:3万5千605円)

※準備にかかった費用のみ助成



助成事業「KOCHI ART PROJECTS 2019」 事業報告会

開催日 令和2年1月26日(日)

会場 高知ちばさんセンター2階・研修室1

参加者 40名(報告者含む)

〈プログラム〉

1. あいさつ 高知県芸術祭執行委員長 新納朋代
芸術祭執行委員会のご紹介
2. 助成事業報告(14団体)
3. 意見交換

～議事抄録～

①地域魅力創出映画「泣きたくなったら、ここにおいで」映画制作と上映 映画音楽コンサート



今回、須崎市と土佐市を舞台に映画を作らせていただきました。特に観光地として今、非常に着目度が薄くなりました黒潮ライン、それから横浪黒潮ラインという太平洋に面したハイウェイがあるのですが、空港からそのまま入れますし、桂浜を通してそのまま土佐市を通り、それから須崎市へ行くという道なのですが、なかなか発展してなくてここに注目をしていきたいというのが、まず一つありました。

それともう一つは、須崎市に浦ノ内という美しい内海があります。こちらに市営巡航船という須崎市民でも、もう知っている方が少なくなったのですが、浦ノ内の方には路線バスの

ような形で活用されておりまして残っているのですが、残念なことに昨年度は4便走っていたのですが、今3便となくなってしまっていて、存続が危ぶまれている状況です。ならば、これを観光として活用できないだろうかということを一つのメッセージとして問いかけをさせていただきました。更には、パワースポットとして最近全国でも有名になっている鳴無神社。ただ鳴無神社に来ていただくだけではなくて、ここに一つ物語を作ってその物語を神社の方々や皆さんと一緒に育んでいながら、一つの文化を作っていくことができないのかなというのも考えました。それと、映画制作の最も重要なポイントですが、今回、芸術祭参加ということもありまして、芸術祭の趣旨にのっとった形で、まず市民の方の芸術映画作りの参加ということで、私はちょっと映画の経験があるのですが、私以外、映画の経験のない方々をスタッフとして集めました。

映画の制作において一番のポイントになったのは、どのような形でこの映画を上映していくか、広報していくかということです。映画を作ることは努力すればできるのですが、今度その映画を上映してより多くの方に見ていただくという手法を考えなければならぬと思いました。これは私どもの仕事かなと思いついて、今回その中の一つ、コンサートというのを入れました。主演女優として東京でライブハウス活動をされておられる方に着目いたしました。年間80カ所ぐらい都内でライブ活動をされておられまして、この方がもともと女優さんタイプということで、この方にオファーをいたしました。この方に主演をしていただくことによって東京での発信力、関東での発信力ということも含めました。

それからもう一つ、映画というもののポイントとしてこれは私の持論かもしれませんが、音楽というのが一つあります。映画というのは本当に音楽がなくても当然見れるのですが、音楽があることでより多くの方に親しんでいただけたり、映画の中の没入感といいますか、入っていただく、そういった気持ち膨らむと思いました。そこで音楽ということも大

事にいたしました。今回、音楽監督という形でAKB48の恋するフォーチュンクッキーを作曲されました伊藤心太郎先生にオファーをいたしました。予算的にもいろいろとお願いをいたしまして、今回3曲作っていただきました。この映画のシナリオを読んでいただきまして、そのシナリオをイメージした歌詞も書いていただき、このシナリオの中で発想してくれた音楽を作っていただきました。映画を制作する前にもう既に音楽ができておりまして、私もこの映画を作るためにこの音楽をある程度基盤にした形で制作をすることができました。なので、音楽と映像のフィット感を今回実現できたのかなと思います。

この音楽を作ったということもありますので、上映をした後にコンサートをしていこうということで、まず東京で2カ所、それから高知でも3カ所です。東京では吉祥寺のライブハウスで上映いたしました。それからまた、人形町にある三日月座という会場、非常にミニシアターとしては老舗なのですが、こちらでも上映させていただきました。更には、お膝元であります須崎市の須崎市立市民文化会館で上映をさせていただいたのですが、予想では100人くらいのお客様からの連絡とか問い合わせがあったので百数十名来られたらいかなと思っていましたが、なんと200名を超える方に来ていただきました。ここでやっぱり同じようにコンサートをすることによって、映画の知名度といいますか雰囲気を市民の方によって浸透させていただけたらと思いました。現在また次の上映はいつですかというような問い合わせがありますので、非常に嬉しく思っております。

そして今回のもう一つ仕掛けとして、早期の段階からワークショップを行いました。これは絵本作家で今回映画のプロデュースもしていただいています、永井みさえさんという方がワークショップをしていきたいということで映画のワークショップをしながら、高校生の方から一般の社会人の方まで参加していただきまして、映画作りってどうやっていくのだろうかという企画、シナリオの書き方、あと映画の制作現場を実際に視察していただくなど、そういうことも行っていました。それによって、映画に参加していきたいという方々の気持ちも少し私達も受け止めて共同で参加していただき、皆と一緒に映画を作っていくという形を作ってきました。

映画というのは資金が非常に必要です。自己資金も投入しましたが、そういった映画に関して資金をいろいろと協賛をしていただきました会社さまに対しては、返礼という意味ではないのですが、ポスターを作りました。あと制作物としては、ポスター、チラシ、最終的にはシナリオを製本いたしました。シナリオの販売をしたり、DVDや音楽の販売など、そういった形をしていまして資金のほうを調達してきました。

今後の活動ですが、来月22日と23日に葛屋さんのほうでこの上映会をすることになりました。そのときに、今回協賛や応援していただいた企業さんのブースも作らせていただく予定です。地域の方々、協賛していただいた会社の方々も巻き込みながら、今回こういう形で進めてまいりました。このような形で今後とも進めてまいりたいと今考えております。

□質疑応答

Q: プロの方だけではなく市民を巻き込んだ形で映画作りということですが、プロの方とそうじゃない方の交流がどういうふうに行われたのか、また、何かいい効果がありましたら教えていただきたいです。

A: 主演の「渡辺おる」という俳優は、東京でライブを年間80回ぐらいやっておられる方で、東京のライブハウスでは非常に知名度の高い方なのですが、高知では全く知名度がありません。その方を支えるために高知で著名な活動をされておられる、例えばお笑い芸人としては「熱燗DRAGON」さん、「ソーラリス」さん、女優の「まひろ」さん、劇団の方などといった方々にも出演いただきまして、高知の方の知っている顔とそれから全く高知で知らない顔だけれどその人が主演しているということで、脇を高知の方々に固めていただきました。また、今回たくさん高知の素人の方々にエキストラとして出演いただきまして、歩くだけではなくて台詞も含めてお願いをしたという形になっております。

②「塩の道の歌」楽曲・動画制作プロジェクト

塩の道というのは、400年くらい前の江戸時代に海沿いの町から山のほうに塩を運んだという産業道なのですが、塩の道は香南市赤岡町とれた塩を香美市物部町から祖谷のほうまで塩を運んだ道でして、山の暮らしというのは塩を手に入れることができなかったのが、当時は往還道で生活物資も運ばれていた命の道だったということです。時代とともにこの道は廃れていったのですが、平成14年に地元の有志がウォーキング道として何とかこの道を活用して地域おこしに役立てようという取り組みが始まりまして、大変な整備事業を行いウォーキング道として復活・再生させました。現



在は、「土佐塩の道30kmうおーく」を3月に毎年開催しているのですが、当時を偲んで塩の道を朝から夕方まで歩いてみようというイベントですとか、トレイルランニングレースなどの大会、香南市観光協会さんのイベントを開催していただいて少しずつ地域盛り上げる活動をしています。

今回この塩の道の活動がもう17、18年になるのですが、高齢化や次世代継承組織がまだで、ボランティア団体で運営しているというような大きな課題があります。この塩の道を何とか継承していくという活動を続けていく中で、自分たちも次の世代も入っていった活動を続けているわけなの

ですが、今回このKOCHI ART PROJECTSの事業を活用しようというきっかけが、国会議員の中谷元先生がよく塩の道のトレイルランニングレースなどに出てくださいっていて、塩の道を実際に通って走ったりして感じたことで塩の道の詞を作ってくださいました。それがきっかけで、塩の道を何とか新しい形でPRしていくということで、プロモーションビデオ、映像や音楽というを取り入れてみようかという話になり、たまたま中谷先生のほうが豆電球さんに作曲を依頼して塩の道の歌ができました。その歌を作って、今回、映像でPRしようという取り組みが始まりまして、塩の道保存会という形ではなく、あえてプロジェクトチームを立ち上げて、地域おこし協力隊ですとか普段の活動以外の新しい風も取り入れたメンバーで、プロジェクトチームを立ち上げて始めたということで、自分たちにとっても大きな新しい一歩を踏み出すことができました。

映像を作るというのは初めてのことで、本当に大変で素人で本当にたくさん苦労というか、初めてのチャレンジをみんな緊張しながら未知の世界で行ったのですが、とりあえずできた作品を見ていただきたいと思います。このDVDは、香南市の絵画歌舞伎伝承会さんのほうに当時の衣装をお借りして、当時と現在と昔の苦労と今の塩の道保存会の苦労を表現できたらいいなということで制作しました。

《PV放映》

塩の道は高知県香美市、香南市の2市にまたがっておりますので、整備の補助金などは香南市、香美市さんのほうに助成をいただいております。また途中で、新しい世代の地元の自衛隊の人たちがボランティアで道を整備してくださったり、色々な方に出演をしていただきました。映像では、当時の人の苦労と現代の保存会が道を守り続けている苦労を表現したかったということで、重く苦しい形ではなく、歌やダンスで楽しく表現できたかなと思っています。YouTubeで今の映像は発信・公開しております。

お披露目会ということで、11月8日にグレース浜すしさんで映像を流して塩の道の活動など併せてPRさせていただきます。良かったことは、この事業の途中に文化庁の歴史の道百選にも偶然選ばれましたので、一緒にこのお披露目会では歴史の道百選にも認定されたというお披露目を両方併せてすることができました。お披露目の中には、保存会が普段行っている活動も一緒に報告しました。また、後ろのほうに展示コーナーも設けて塩の道をPRしました。途中、塩の道弁当というお弁当も塩の道の売りでして、全て自然に帰る素材でできております。塩の道がある香美市物部町の地域の特産品、山の幸をふんだんに盛り込んで当時に思いを馳せられるようなお弁当も、実際にこのお披露目会で展示をして、色々PRをさせていただきます。今回映像の中にもあった振り付けもでき、皆で楽しく歌って踊れる塩の道の歌と踊りを作ることができたので、ラストは初めての人も一緒に踊って、大変盛り上がりのあるお披露目会をすることができました。

今後の活動をどうしていくか、初めて保存会の活動からプロジェクトチームを作ってこれからの塩の道というフィールドをどういうふうに使って活用していくかというのが、これからの自分たちのテーマです。変わらなく言えることは、塩の道というのが昔も今も人の思いで繋げられていく、受け継いで維持しているというのが塩の道だということをベースにして自分たちも発信していく、これからの活動がテーマということになっています。

□質疑応答

Q:映像の画額や撮影など、ドローンも飛ばしていますか？すごく上手くできているのですが、これはどこかのプロダクションにお願いしたのですか。

A:制作のカメラマンの方に今までの活動をお伝えしたところ、ストーリーは考えてくださって、それにもう少しこういうふうなのを入れたいなどの自分たちの意見をお伝えし、自分たちの活動の中の思いを入れていただきました。

③なはり古民家Art&Live2019



なはり古民家Art&Live、内容としましては、奈半利の古民家、登録有形文化財を会場に現代アート展・ライブなどを開催しております。開催期間は約2週間です。

これまでの実績です。2017年は古民家4カ所でした。それから2018年が5カ所、今回は7カ所と毎年増加しています。作家さんの数も最初は都築房子さんお一人でしたが、それから9名、そして今回は11人とこちらも増えています。来場者数も2,000人、3,200人、今回は3,700人とやはりこちらも増えているという状況があります。

今回のイベントの内容は、まず期間は9月14日から29日、約2週間開催しました。古民家を使った現代アート展・ライブ展のほか、アーティストに中学校でワークショップを開催していただきました。また、一般の皆さんにもワークショップをしていただきました。これまでは作る側と見る側が交流する機会がなかったので、アートクラフトショップを開きそう云った場を設けました。あとは弊会が毎年開催している、古民家を題材とした子ども達の絵画展「お宝をかこう展」を同時開催しました。

各催しの詳細です。現代アート展の会場は登録有形文化財7カ所です。出展は都築さんを始め、国内外、県内外で活躍する若手の方が多かったです。11人に参加していただきました。こういった古民家を使って、のぼりも作って目立つようにしています。作家さんには各会場を事前に見ていただいて、その家主や浦の会、そういったメンバーにコミュニケーションを取ってもらって、奈半利をまず知っていただいて、そこでどういった作品を作るかというのをそれぞれの作家さんでいろいろ考えていただいて制作していただきました。

ライブは濱田邸です。濱田邸は奈半利でも本当に皆さんに見ていただきたい古民家です。そこで演奏は「gentle」、いちむじんの宇高さんが組んでおられるユニットに演奏していただきました。お二人は3年連続で来ていただいておりませんが、本当に毎年楽しみにしていただいて、昨年も来年は何をやりましょうかって終わった途端に言ってくださり、お客さんも毎年楽しみに来ていただいております。

中学生のワークショップでは、都築さんと堀田さんに講師をしていただき、中学生42人にマーブリングの指導をしていただきました。やはり郡部、特に奈半利は子どもの芸術に触れる機会是非常に少ないです。指導者がいないということで、本当にレベルが低いと言ったら子どもたちには可哀想なのですが、そう言う環境を作っているのは大人なんです。今回は都築さんにこういう機会をいただいて、子どもたちにとっても良い機会になったと思います。

一般の方を対象にしたワークショップでは、増田屋という昔の呉服屋さん、酒屋さんをされていたところなんです。堀田さんにバードカービングといいまして、木から鳥を作るというワークショップをしていただいて、地域の方や他からも、もちろん来ていただきましたし、本当に楽しんでいただきました。

アートクラフトショップでは奈半利町活性化センターで6人のガラス細工、古布のクラフト、陶芸、スイーツなどそういった方に展示をしていただきました。実際にその方の作品を展示、販売して、ここでも作家さんと地域の方などの触れ合いがあり、いろんな思いなどの話ができる場所となりました。

「お宝をかこう展」は弊会が行っています。今年で14回目になりますが、奈半利の登録有形文化財を子どもたちに知ってもらおうというものです。素晴らしいものがあるけど、なかなか触れ合う機会がないということで、子どもたちに夏休みに古民家を中心に絵を描いてもらい、作品の展示を毎年開催しています。子どものアイデンティティーなどにも関わってくることだと思うのですが、地域をどれだけ知るか、子どもたちが楽しんで絵を描きながらそれを学んでくれる、そういう場所にしたいなと思っています。今回は奈半利小学校、加領郷小学校の生徒30人が出展してくれました。今年は古民家で表彰式や展示もしました。

アンケートの結果ですが、来られた方は女性が多く、年齢は70代、60代の方が多かったです。また、高知市からの訪問が一番多かったのですが、県外からも来ていただきました。のぼりを各会場に立てていたの、「これ何しゅうがで」と

言って来てくれた人も結構いらっしゃいました。たくさんの方が期待して、「また楽しみにしちゅうで。来年どうするがかね」と声を掛けてくださいました。やっぱり古民家と現代アート、この違和感も多分あると思いますが、そこでどういうふうなことを感じてもらえるかということが、このイベントの面白いところかなと思います。

一番良かったのは、町・学校が意義を感じたことにより、子どもたちが芸術に触れる場、教育の場を設けることができたことです。子どもたちにこういうふうな場が提供できたということは、本当に今回の大きい成果だと思います。

古民家と芸術を融合させることによって、芸術の新たな可能性、関係人口の拡大、交流人口の拡大、経済効果、教育、アイデンティティーの構築など様々な可能性が広がりました。反省点としては、少し今回広げ過ぎたなどというものもあります。大変でした。

今後の課題として、やはり資金です。このような催しは運営費を賄うのが非常に厳しい。先ほども企業の方にスポンサーになっていただくというのがあったので、参考にしたいと思います。若手アーティストの方との交流の中で、今ギャラリーが減り、なかなか発表する場所もない、やってもお金がかかるということで、やっぱりこういう場所を僕らが皆さんに提供することによって、若手アーティストの方もいろんな発表をできる場になると思いますので、これはぜひとも続けていきたいと思っています。

□意見

・例えば、香南市では、市内の小中学生を対象に毎年「岡本弥太文学賞」を開催しています。詩と俳句が対象ですが、1,800人程の子どもたちが参加しており、今年で第19回目を迎えました。途中、予算面から、中止も検討されましたが、継続の方向を見出し、今日では、子どもたちのために、多くの大人がボランティアで参加しています。毎年、優れた作品が増えてきており、子どもたちは、確実に力を付けています。継続は力なり、その言葉を実践しているのですね。郡郡の子どものレベルが低いとおっしゃるのではなく、地域の子どもたち(宝)に目を向けていただき、より多くの子どもたちが参加できるよう、今後も取り組んでいただければ願っています。

④原典版「ロミオとジュリエット」～Shakespeare Ensemble 高知公演～



私たちの運営組織は主に高知大学のメンバーで、今回、原典版「ロミオとジュリエット」の上演を企画しました。学部と専門の属性から、私、人文社会科学部の関が全体の取りまとめを行い、また、出演者が英語圏の方々なので、同学部のリンダリーさんと共にそういったところのやり取りを行いました。教育学部の長谷川さんにはワークショップ事業を取り仕切っていただき、地域協働学部の松本さんにはワークショップ・公演参加者等のアンケートの作成や集計、振り返りをご担当いただきました。

まず、私たちの事業に関してですが、一言で申し上げますと、ベン・クリスタル氏が率いるShakespeare Ensemble(シェイクスピア・アンサンブル)の高知公演を県内唯一の木造芝居小屋である、ゆすはら座で実施するというものです。ベン・クリスタルさんは、イギリス生まれの俳優・文筆家・演出家でBBCの番組やTED Talksへの出演、世界各地での講演などを通じて、シェイクスピアというのはテキストで読むものではなくて、実際に演じたり、声に出して台詞を言ったりすることの大切さを普及しておられる方です。

Shakespeare Ensembleは、ベン・クリスタルさんが主宰する演劇団体ですが、1つの団体があるというよりはコンセプトを共にした人たちが集まって基礎的なトレーニングを受けた後に、短期間で劇団を作って上演するというような実験的な演劇団体となります。ベン・クリスタルさんは、過去に2回高知にいられていました。2019年は劇団を連れて日本ツアーにいられるということで、大学だけではできないということと、大学よりも広く、県内・県外の方々に参加していただきたいと考えたことから、今回、高知県芸術祭に参加させていただいたという次第です。

Shakespeare Ensembleの方々は9月15日～10月3日の間、来日され、まず9月16日～19日に日光でリハーサルを重ねて劇団を結成されました。3つの演目を日本各地で上演され、9月28日に高知県のゆすはら座で「ロミオとジュリエット」の公演を行いました。メンバーは、イギリス人2人、アメリカ人7人、日本人1人という構成でした。高知でのスケジュール

は、9月26日に高知駅に着き県立大学でワークショップをしていただきました。翌日、梶原に移動してリハーサル、28日に本公演を行い、29日に東京へ行かれるという行程でした。

高知市での事前ワークショップでは、夜6時から8時という時間帯で参加費無料で参加者を募ったところ、小学校低学年から中高年の男女まで世代を色々と含んだグループでワークショップを行うことができました。初めは体育館を歩き回ったりするところから、アクションを仕掛けてそれに対してどう応じるかといったようなところ、ほぼノンバーバルで言葉を使わずに体を動かすというようなワークショップが行われました。その後、Shakespeare Ensembleの代名詞ともいえるエクササイズ(竹の棒を使って2人組になって活動をして、2人の人の距離感を競ったり、あるいはアイコンタクトをとったりというようなワークショップ)を行いました。ノンバーバルでこういう活動していたこともあって、小さな子どもたちもとても興味を持ち、お姉ちゃんの付添いで来てたような子や、2歳の子どもも、自らワークショップに参加したりしていました。最後は、竹の棒を使って人間知恵の輪のように大きな輪になって、それを絡ませたりといったようなことが行われました。

本公演の会場である、ゆすはら座は正面に額縁舞台がある劇場ですが、今回の公演では中央に演技スペースを設定し、囲み舞台で、西洋にあるような古い円形劇場を再現したような形で上演されました。出演者からは、当時のヨーロッパの舞台が木造であったということは知識としては知っていたけれども、イギリス、アメリカ等ではそういった舞台があまり残っていないので、そういう意味で木のぬくもり、冷たさ、肌触り、反響の仕方などを体感することができたのがとても良かったというような意見が出ました。

公演とワークショップの参加者アンケートは、作品に対して満足したかという直接的な効果のみならず、今回の事業の位置付けとしても芸術文化の振興といった面でどのような寄与・貢献があったかを検証する目的でとってみました。回答者の属性については、ワークショップは平日ということもあったので若い方と50歳以上の方に二極化され、公演のほうには各世代まんべんなく見ていただいたという感じです。満足度は、非常に高いものを得ることができました。次に、『高知県文化芸術振興ビジョン』(H29年3月策定)の中の4つの項目に照らし合わせて、今回の事業がどんな影響を与えたかを見てみました。最近のいわゆるエビデンスベーストな政策に役立てればと考えております。どちらかというと参加度が高いワークショップのほうで、満足度はやはり高い傾向にありました。特に、「心の豊かさの向上」ですとか「参加意欲」という項目はワークショップでかなり高かったです。一方で、「伝統的な文化・芸術の保存や継承」の項目だけは、やはり公演の方が高く、ハイクオリティなものに触れることによって、その価値がぐっと高まるのだなということが分かりました。「地域の振興に役立つ」というのは4項目の中でも総じて高いところがあって、こうした一つ一つの事業が政策的な結果、出口の一つになっているのかなと感じております。参加者は総じて高い満足度を感じていらっしやったのですが、4つの項目どれに偏ることもなく多面的な効果が見られました。

こういった政策と活動の橋渡しのようなデータを、この事業に限らず、色々と取っていくようになれば、事業・政策支援などもやりやすくなるので、そういう好循環の生まれるようなものになって行けばいいなと感じております。

□質疑応答

Q: 高知県ではあまりお芝居を見る機会がないので、すごくいい企画をされたなと思います。古い英語ということで分からないところも多かったのですが、やっぱり感じるところがあって、見た方の芸術への関心を高めることができて良かったと思います。ハードルが高そうなお芝居だけれど、思っていた以上に人が集まっていて、広報はチラシとウェブサイトを作られていたと思うのですが、それだけであれだけ集まるのは、すごいなと思いました。どういった工夫を広報でされたかというのが、もし何かありましたら教えていただきたいです。

A: チケットは、実は10日前くらいはどうなるか心配だったのですが、5日ほど前に高知新聞のほうに取り上げていただいて、その後の反響がとてもすごくチケットの予約が1.5倍くらい伸びたかなというのがあります。少しハードルの高い事業かなと思うのですが、劇団の意向もあってできるだけ安価に1,000円で来ていただけるようにした事と、梶原までのバスは無料でできれば良かったのですが、大学のバスが使えなかった等の理由でチャーターすることになって、それでも往復1,000円にし、2,000円あれば見に行けるという価格設定にした事が、うまく功を奏したのではないかと思います。

⑤八畝AutumnFesta2019



実行委員会の構成は、大豊シャクヤクの会、農学部 of 学生さんたち、高知大学のボランティア団体MBという団体、人と地域の研究所、八畝婦人会、そして私たちの劇団であります、おさらい会という劇団が中心となってやっております。

これまでの上演作品というのは、かなり古い作品ばかりやっておりました。というのは、八畝のお父さん、お母さんたちのリクエストとして、なるべく何か時代劇が見たいというような話がありまして、大正期に書かれたような作品をやることが多いです。

八畝とはどこかということ、ほとんど徳島との県境になります。八畝の集落というのは33世帯77人の非常に小さな集落です。八畝の耕作放棄地を何とかしようじゃないかと高知大の学生さんたちもいろいろ頑張ってくれて、ここをもっと人が訪れるような場所にしたいということで、私たちも関わっております。

狙いとしては、様々な創造の趣向、グリーン・ツーリズムの実現など、いろいろ考えておりますけれども、ツアーのスケジュールはまず、集落にある大きなお屋敷で「晩の母」を上演しました。

交流会では、ここで採れております地キビで作った焼酎を楽しみながらジビエ料理を楽しむということも毎年続けております。残念だったのが、地きび焼酎「八畝」の原料と、あと地キビの脱粒体験、そしてポン菓子作りが今年も中止になってしまいました。昨年は、どうしても登熟が進んでいなかったということで急遽お米に替えたのですが、今年は登熟どころか5月に気温が上がらずほとんど採れなかったということで、それが中止になって八畝集落の散策に変更して行いました。また、嶺北高校の吹奏楽部の皆さんにも演奏していただき、最後棚田舞台上「銀河鉄道の夜」を上演しました。

嶺北高校というのはこの地域の高校ですが、高校生は実は今一人しかなくて、高校生たちの演奏する音楽をこの谷に響かせたいということがありました。それから「銀河鉄道の夜」を選んだ理由は、中芸の森林鉄道の催しでも上演しようということがありましたので、この作品を選んだことでした。

そして、地きび焼酎と地元の野菜だとかジビエ料理を楽しみ、散策をしました。大学生たちが、自分たちの活動を皆さんに紹介していくのですが、東京からも昨年に続いて来てくれたお客さんが5人ほどおりまして、散策していくと、道沿いにアケビの実がなっていて、それを採って「何だこれは」と言いながら喜んで食べるだとか、それからヤマナシもありまして、ヤマナシも食べてみるというようなこともやりました。

前日は高知市などは物すごい雨で上演できないのではないだろうかと思ったら、ここ八畝自体は全然雨が降ってなくて、今にも雨が降りそうだったのですが天気にも助けられたことでした。非常に綺麗な虹も出まして、さあ今から上演だぞ、「銀河鉄道の夜」の上演だぞというようなことで、「銀河鉄道の夜」は真ん中に焚火をたいたりしながら、イルミネーションの演出が少し強い形で行いました。

八畝という場所がどういう場所なのかということで、たまたま入ってくれた方がドローンを持っておりましたので、ドローンで撮影をしていただきました。

《ドローン映像放映》

水田の稲刈りなんか始まりかけで、あちこちにまだ稲穂が実っている頃でした。このドローンの撮影は主に準備の過程ばかり映っておりますが、大体こういう感じでミカンコンテナを客席に置いて舞台を取り囲む形で会場を作りました。かなり上空から撮ってくれておりますが、準備段階だったのでドローンの音も気になることなくこういうような撮影をして編集してくれました。今回、高校生や小学生の出演者もあり、八畝にいない世代の者を入れることによって八畝の住民の皆さんとの交流の場を持たそうということを狙いました。また、愛媛から「れいほく博」のツアー客が訪れてくれるということがあり、企画が上手くいったかどうかはまだ不安ですが、県外、愛媛のほうにも今回広がったというように感じております。

□意見

・今後、どう続けていくのかというのは非常に難しい問題だと思いますが、例えば今日ここにお集まりいただいている皆さん

んが持っているコンテンツと八畝というところが、共感し合うようなものもあれば、そういう繋がりを持って、共同開催、更にこの助成金事業ではなく、大型の国などが支出しているものにエントリーしてみるなど、何か次の手だてが可能性としてはもっとあるのかなというふうな気がしています。ぜひ、頑張ってください。

⑥旧立川番所書院 華の祭典 ～美と響きの格調高く華やかな共演～



開催が、昨年の11月3日です。1時30分から2時間半の音楽のイベントでした。

企画についてですが、コンセプトとしては、国の重要文化財を使い、土佐の伝統芸能とプロの演奏家による演奏を掛け算したら芸術の素晴らしさを表出させることができるのではないかというものでした。立川地域は、高齢化率が87パーセントを上回る過疎高齢化が進む地域ですが、そういった地域に住む方々のやりがいと達成感を感じることができる機会を作り出したいと思い企画したところです。

当初は、3者の掛け算だったのですが、土佐の伝統芸能と、いいまでも出演者も決まっておらず、とりあえず濱長さんへ行って、「すみません、こういう企画でやりたいのですが」ということでお願いをしました。内容は漠然としていましたが、濱長さんには旧立川番所書院に興味を持っていたので、「じゃあちょっと行ってみましょうか。」と快諾していただき、実施に向けた取り組みが始まりました。

企画を進めていく中では、集落活動センターの設立によって出来た地域の盛り上がりも後押しして、「集落活動センターの設立式典も一緒に開催しよう。」や「演奏が終わった後には大おしゃくをやろう。」、地域の方で漫画家を目指している方がいらっしゃるの、「イラスト展も一緒にやろう。」など、企画が膨らんで行きました。

苦勞をした点ですが、太鼓と踊りを共演させるというのが見どころだったのですが、高知と所沢という距離感で連携が難しかったことなど、実際にやってみると大変なところもありました。

そのようないろいろな問題を解決しながら取り組みを進めてきましたが、当初、開催予定日であった10月12日に、直接高知に被害はなかったのですが大型の台風19号が接近したため、やむなく中止にしました。

すでに準備にお金も使用していましたので中止ではなく延期にすることとしました。

演奏家の都合により、延期日を11月3日として調整が始まりましたが、濱長さんと設備、式典、交流会、全ての調整が上手くいかず、結果として、設立式典は別日で開催。おしゃくについても、11月3日が町内の文化祭であったため、地元のお母さん方が参加できずおしゃくも中止。音響の設備なども同日開催の文化祭への使用が決まっており、地元調達でやるしかないなど、手配や調整が大変なスケジュールとなりました。

また、日程の変更によって、演奏規模も縮小となりました。当初は2mくらいの太鼓と締太鼓合わせて10人の編成で、大掛かりなものでありましたが、スケジュールの都合により3人となり、濱長さんにおいては、カーニバル00の開催日と日程がかぶっており出演が危ぶまれる状態でした。

結局、なんとかやりくりしていただき、出演していただけることとなり、式典や宴会の開催はできなかったものの、音楽については企画どおりの開催が可能となりました。

それが決まったのが実施日の10日前でチラシの作成に要する時間などで、広報期間が7日間しか取れませんでした。イオンさんや、とさのさとさんなどにチラシを持って配布しました。また、県内のメディアにも行ったのですが、「いろいろなイベントがあるので、広報するのは難しいですね。」と言われて、演者さんには、「ひょっとしたら30人くらいしか集まらないかもかもしれません。」とお断りし、相当やばいということを感じながら当日を迎えました。実際開演してみると122人の方々に来ていただきまして、本当に胸をなで下ろしたことでした。

多くは町外の方でしたが、文化祭が終わってそのまま駆けつけたという地元の方もおり、また、海外の方も多数いたりなど、意外な方にも来ていただいて良かったと思っています。

成果についてですが、「立川の歌」というのを地域の方が詞を書き、曲のほうは東京藝大の学生さんに作ってもらいました。これを歌いながら地域を盛り上げていこうといった歌もできましたので、この後の取り組みが楽しくなってきました。

日程の変更などもありまして、アンケートがとれなかったことが大変残念だと思うのですが、この音楽イベントを8年前から行っていますが、ようやく地域に定着してきました。毎年楽しみにしている方もいらっしゃるし、また、外への発信も何とかできているのかなと思っております。こういった音楽イベント等々、今後も続けていきたいと思っております。何かまた告知等見られたら、足を運んでいただければと思います。

□質疑応答

Q:特に、日程変更された後が大変だったと思うのですが、よくこの11月3日に合わせて調整をされたと思います。素晴らしいです。

今までクラシックなどいろいろな音楽をされてこられましたけど、今年は芸妓さんがいらしゃったということで観客の層は違いましたか。

A:特には違っはなかったと思いますが、この芸妓さんが来るから来たというお客さんは多かったと思います。地域の方も、この芸妓さんを見られるということで、それこそ文化祭から帰ってこられて駆けつけたお客さんなどもおりました。すごく楽しみにされていたので、何かちょっと違った目で楽しめたような気はしました。

⑦ツノチャ・マルシェVol.4



このイベントを行うことになった背景として、まず高知県でお茶が全然売れなくなってきたという現状はご存じの方も多いかもしれません。ピーク時の5分の1しか売れてないんですね。なおかつ、47都道府県の中で高知県はワーストです。緑茶の販売額というと、購入額が全国で一番売れてない県なんです。四国は普及しがいがないという不毛地帯のように言われております。そういった中でやっぱり高知県もお茶の産地としてはかなりの面積がございますし、四国の中で一番面積が広いということで皆さん外商を通じて今、一生

懸命各産地の方々立ち上がって売ってらっしゃいますけれども、やっぱり地元に来て地元でお茶の魅力を知っていただきたいというイベントを行いたいという思いがありました。津野町は、すごく魅力ある町なのですが、お茶の産地であるということがあまり知られてない上に天狗高原には行くけれど、途中、津野町に滞在している方が本当に少ない町だということにキャラクター祭り化しております。年に1回特産市として5月に新茶祭りというのがあるのですが、ほとんど知られていない上にキャラクター祭り化しております。新茶が全然売れないという現状をお聞きしました。せっかくお茶の町なのでお茶を売るイベントが全然機能してないというのが残念だなと思ひまして、地元の農家さんと有志団体を立ち上げてツノチャ・マルシェというお茶をテーマにしたイベントをやりたいというふうに思い、始めたのがきっかけです。

今年、実質3回目として大人がお茶を飲んでいる間にお子様方が飽きてしまうということで、お茶をテーマにしたちょっとかわいらしいメリーゴーランドを佐川町のKOSUGEI-16さんが作っていただきまして、メリーゴーランドを設置してお子さんも楽しくというふうにイベントを開催させていただくことになりました。今回、そのメリーゴーランドに対して助成をしていただいたのですが、なにしろお茶が売れないと困るのでお茶を買わないとメリーゴーランドに乗れないとか、お茶の葉っぱを買わないと、というふうに結構今年限定しました。試飲カップは昨年、500カップ用意したのですが300カップ販売する辺りから農家さんから試飲が間に合わない悲鳴をいったりしていたので、何とか試飲カップを売る分だけはしっかりサービスができるようにはしようということで、今年は300カップにしたのですが、30分で売り切れてしまった例年になくお茶を飲みに来てくださった方が増えました。今年は、出店ブースも農家さんもだんだんイベントに人がということをつかっていたので、11農家さん11店舗にお茶のブースを増やして全48店舗の出店となりました。過去、ワークショップを1回行っておりまして、お茶に関係ないワークショップとかもやっておりました。ただ、今回はお茶をやっぱり知っていただきたいということで、ほうじ茶のワークショップをさせていただいて120人体験をいただくことができました。マイほうじ茶を作るということで、フライパンで簡単にお茶をいって自分のオリジナルのほうじ茶を作るという体験をしていただいたのですが、昨年までのお茶の入れ方講座とかを無料でやっても2、30人しか来な

かったのですが、今年はその体験を行わないとメリーゴーランドにも乗れない、トウトウクにも乗れないということで、お茶の体験をするということに特化したところ、大変多くの方に茶の体験をしていただくことができました。

地元の方の協力が徐々に増えてくるようになりましたので、津野町のお茶をPRするためにこういうイベントを行うので協力してほしいという説明会を行いました。これまでは各農家さん、個人的にアタックして説明をしていたのですが、今回、会を開いて来ていただいて、こういうふうな販売の仕方をするともっと売れますよというような販売講座も絡めながら満天の星さんにも協力いただきながら説明会をしたところ、結構農家さんにも来ていただいて皆さん今年力を入れて売ろうというような団結力も生まれました。

また、お茶の展示を今まで行えてなかったのですが、お茶のエビラという道具なのですが、お茶を干すときに使う道具でして、ここにいろんな津野町のお茶の魅力とかを書いて貼って、あと産地の状況とかを説明を書いてお茶のブースの周りに展示するというようなコーナーを設けたところ、結構皆さんに見ていただいてお茶の状況なんかも知っていただくことができました。

当日、メリーゴーランドは、ティーボット、ケーキの形をしていたり、ティーカップだったり、お茶のティータイムを意識するようなデザインにさせていただいて、その周りでライブを行ったりしながら大変多くの方に盛り上がっていただけました。ワークショップのブースでは、今年は日本茶インストラクターの方々にもご協力いただきながら大変意味ある勉強になるコーナーというのをさせていただいて、昨年まで全然ワークショップは人気なかったのですが今年は多くの方にご参加いただきました。

PR活動も大切だということで、1カ月前から毎日SNS更新をして情報を発信しました。毎日やっぱり発信するので結構多くの方にフェイスブック等見ていただいて、またラジオでも津野町役場さんにご協力いただいて放送を流させていただいたりして、それを見て県内外から多くの方に来ていただくことができました。先ほど申したように結構多くのお客様にもご来場いただくようになったのですが、何よりお茶の農家さんの売上が一番多く売れたイベントになったということと、あと文化普及の面でも多くの方に体験いただけたということ、それから出店者の多くの方々はお茶をテーマにしたということを特化してお伝えしているので、皆さん多くの方が取引業者さんになりまして、なおかつ、お茶以外の方はストップというような形にさせていただいたので、あらゆる事業者さんがお茶を意識した出展内容にいただきました。

大きな課題としては、実行委員の人数が少ないということと核になるメンバーが少ないということで、これから自立してやっていく中では地元の方にもっといろいろPRをしながら、お茶業者さんだけでなく今まで特産市というのがあったと思うので、その特産市の方々にも協力いただきながら町全体で盛り上げられるイベントにしていきたいな思ひました。

□意見

・とても楽しい催しだとおもいました。

ただ、音楽コンサートについては、素通りのお客さまがほとんどであり、足を止めて聞いている方があまりいなくて、なんだか演奏者の方がお気の毒でした。例えば、お客様を促すために、アナウンスを頻繁に入れることも大切。今回、司会者がいなかったことも要因かもしれません。出場者との掛け合いも大事ですね。

また、お茶の体験では、体験時間が短くて、ゆっくりお茶を楽しめなかったことが残念でした。

ゆっくりお茶を焙じ、そのお茶を試飲する。体験型にするのであれば、香りや風味を楽しむ時間が必要です。「高知の中で、つの茶というお茶がとても美味しいんだよ」「お茶の楽しみ方って色々あるのだよ」と多くの方に知っていただくためには、どのようにすれば良いのか、お客様は何を求めているか、来場者の立場にたって、取り組むことが大切だと思ひました。

⑧香北にアートを生む ～ 古民家でのアーティスト・イン・レジデンス Vol.2 ～

AiRLite Kochiの成り立ちについてですが、私自身、高知に来て移住12年目で、移住してきて香北町に住んで古民家でカフェをやっています。そこで2人の子供を儲けまして、自分たちの生活に対してはすごく満足があるのですが、子どもたちは自分で選択したわけではないので、ここで生まれ育っていくわけです。毎日の生活の中で楽しく暮らしているのですが、何か物足りないなというのがありまして、やっぱりその文化的なことがもう少しこの田舎の山間部にあればもっと生活も充実するのではないかなという考えからAiRLite Kochiというのを立ち上げて、同じ移住者のご夫婦と2組で、



まず第1回目を始めまして昨年やらせていただきました。今年は都合がつかずAiRLite Kochiとして、私と妻2人でやらせていただいています。

150年くらいの古民家の蔵のほうを改装してギャラリーとして使って、今年はアメリカのロサンゼルスから入江飛鳥さんというアーティストを迎えました。「ゴミデギャルソン」というタイトルで、入江飛鳥さんに、ここで滞在していただき制作していただきました。またそれに加え、関連事業を3つくらい開催しました。

助成金の中でこのフライヤーを作らせていただいたのですが、北川デザインオフィスという東京にあるデザインオフィスに依頼しました。このチラシ自体は質の高いものを作る必要があると思っておりまして、そのデザイナーに依頼しました。予算も限られているので、チラシとしても使えるし広げていったらポスターとしても使えるというようなデザインにさせていただきました。

入江飛鳥さんの滞在期間は10月17日から11月6日で、3週間滞在していただきました。作品の展示期間は11月3日から11月10日となりました。また、関連事業として、アーティストの入江飛鳥さんとアート座談会を開催しました。このアート座談会というのは香北町の大宮小学校にある保護者で作られたスクスクの会という子どもたちを夏休みとかでいろいろな料理教室とか音楽教室を開催している会があるのですが、そこと今年は連携しましてアート座談会を始めました。普通の講演会であれば今まで一方的な話を聞くだけで終わることが多いのですが、机を輪にしてみんなで食べ物やお酒を持ち寄って、その中でざくばらんにキーワードに話をするということで意見交換が行われました。当日はアートの教育や海外の生活のこと、ロサンゼルスでのアメリカのアート、アーティストとしての立場などいろいろな意見交換が行われました。参加者は大体30人。大体の方が持ちのお母さん方、お父さん方もいらっしゃいましたけど、移住者の方がやっぱり多かった。移住者の保護者の方が、この田舎の中で文化的なものが必要だということでいろいろな話が積極的に行われました。

11月3日には、オープニングレセプションを開きました。このレセプションにも地域の方などがたくさんお越しください、制作も止まらずどんどん進んで子どもたちと作った作品を展示して写真一緒に撮ったりして楽しみました。

11月4日には、ワークショップを開催しました。ダンボールランドといって、かたどって色を塗る、ドレスとか服のようにかたどって、それに色を塗った上にビーズとか持ち寄ったごみなどを貼って行って、子どもたちもお母さんお父さんと参加して遊びました。飛鳥さんのコンセプトは身近なテーマでファッションや流行、ダンボールや廃棄物を使って服や身につけるものを作ることによって既存のファッション、流行の常識や社会における自分の存在に対する問題を実現するというものです。ごみをそのままごみとして捨てるのではなく、今までのごみに対する考え方と、もっと違う考え方でゴミに接してみようじゃないかという考え方で生まれたみたいです。テレビ取材も受けました。入江飛鳥さん自体はアメリカ、メキシコに学生の頃いて、アメリカロサンゼルスに住んでいて日本で制作するのは初めてです。

今後の活動としては、やっぱりこういうアート活動というのは一過性であってはいけないと思っていて、子どものアート教室というのは2月から毎週水曜日に始めようと思っています。あとは、飛鳥さんのライフワークなのですが、ヌードになることが多くてそのヌード写真を香北町のショウガ畑やコスモス畑で撮った写真がたくさんありまして、それをロサンゼルスで今後写真集を出版できないかなという働きかけで今動いています。

□意見

・苦労した点・反省点のところに、「内輪でまとまらないように」そういったイベントにしたいということを書かれています。このことも結構重要なかなと思っています。最初に子どものためにということからスタートしていますので、結局そこに戻られてもいいのかなと思います。目的としては身近な大人が子どもに対して何を残せるのかとか、そういうことのほうが大切で、その部分を飛ばしてしまっただけで大きいことをするのは、今回新たに定例でアート教室をやられるということですし、そういうことのほうが一步一步進んでいくような気がして、そのことが次、第3回目に繋がるのかなと思います。

⑨映画『絵金の息吹』上映イベント

二人芝居「絵金縦遊伝」高知公演までの道のりを追ったドキュメンタリー



まず事業の内容についてです。これはドキュメンタリー映画の上映とそして音楽、お芝居と一緒にやる複合的なイベントということになります。2017年度に助成金をいただきまして、高知の幕末土佐で活躍した弘瀬金蔵という絵師を題材にして、絵金の奥さんである初菊さんとの愛憎物語を含めた絵金さんの半生を描く舞台を上演しました。それを2017年11月に香南市赤岡町、弁天座のほうで行いまして、実はその制作過程から本番までを裏側で密着して映像を撮っていました。その映像を撮っていたのが、一澄アヤメという若い女性監督です。その監督が撮った映画が今回できたので

ぜひ高知で上映させていただきたいということで、どうせやるのだったら絵金さんにちなんだイベントにしてやっていきたいということで行わせていただきました。それが、11月8日、9日で行ったイベントです。

まず、どんな舞台を追いかけた映画なのかということですが、先ほど言いましたように絵金を題材にした舞台です。それをずっと裏側で追いかけていました。かなり好評いただきまして、お客様たくさん来ていただきました。監督の一澄アヤメが宵晴し座を追っかけようと思ったきっかけは、この人たち何でこんなに絵金に夢中になってやっているのというところから疑問に思った監督が、撮ってみたいなのというところから始まっております。絵金の人生のターニングポイントを巡り、幕末土佐の絵師・金蔵の絵画文化をもっと知ってもらおうというコンセプトで、高知市から始まる上映会ツアーを組みました。実は絵金さんは江戸に行って、関西のほうにもいたと言われていて。どうせ上映するのであれば絵金さんがいたと言われているところをずっと巡ってツアー組んで回ろうじゃないかということで行いまして、そのスタート地点に絵金さんの生まれ故郷である高知市、ここでイベントを開催することとなりました。

いろんな方ゲストに来ていただきました。絵金研究家の元絵金蔵の館長で今アクトランドの学芸員をしている横田恵さんという方に絵金のことについて講演いただき、三味線奏者の田村花枝さんに土佐の古い歌を聞かせていただいたり、香南市で活動されている写真家の中田さん、赤岡町で活動されているデザイナーの田中たい子さんに絵金にちなんだ絵を描いていただいたり、写真家の方には絵金祭りだけではなく、あちこちに残っている絵金の絵を、撮り下ろしてもらったりして、ここで見るよというような情報も提供していただきました。河田小龍と絵金が実は師弟関係であったというふうに言われておりますので、それにちなんだ短めのお芝居も一緒にやらせていただいたりとかしております。この一澄アヤメは、初めて高知へ来て絵金という存在にちょっとびっくりしたと言っております。宵晴し座が赤岡の人々を中心に交流を持ちながらお芝居を作っていくところにちょっと感動したということで撮ったのですが、ぜひこの場を皆さんに見ていただきたいということで、そこを視点にかなり重点的に撮っており、交流の場面が非常に多い映画になっております。

11月8日、9日に行われたメフィストフェレスの実際の様子ですが、想定では150人くらいは来てくださるかなと思っていたのですが、実際は思ったより少なかったです。良かった点としては香南市の方で、赤岡の方とも繋がって協力し合いながら進めていったということと、高知のマスコミの方にとにかく協力を仰ぎまして、取材してくれ取材してくれ、宣伝してください、皆に見てほしいですということをやったら結構早い時期からテレビ局、新聞が取り上げてくださったので、広報活動としてはうまくいったかなと思います。あとは、地元の方が積極的に宣伝してくれたということが非常に良かったのと、県の方や香南市、高知市などにも協力を仰ぎまして、とにかく一緒にやってくれ、一緒にやってくれというアピールをしつこくしました。高知県の観光コンベンション協会さんにもお世話になりまして、よさこいネットや旅広場の大きなテレビモニターで宣伝していただいたりとかして、とにかくありとあらゆる手を使ってPRに励みました。というのも、我々は拠点が東京なので、なかなか高知で手で持って回ってほしいですと、やりますよというのがなかなかできません。ですから、こういうようにマスコミさんを使うのが非常に有効でした。また、横田恵さんに非常に素晴らしい講演をしていただけたのと、ミュージシャンの方たちも土佐の息吹を感じるような、そういったパフォーマンスをやってくださりまして、これには本当にお客さんも喜んでくださりました。映画そのものが感動的だったということで評判も良かったです。絵金の息吹で検索していただけますと4分くらいの予告編がYouTubeに残ってお

りますのでぜひご覧ください。苦労した点は、制作スタッフが少ないという部分です。あと、先ほども言いましたが東京であるから足で回ることがなかなか厳しいということです。また、絵金の息吹はお芝居なのか映画なのか少し分りにくいところがあったので、PRするときになかなかうまく伝わってなかったのではないかなと思いました。あと、県は結構手伝っていただいたのですが、実は高知市とはあまり連携取れなかったというのが実際あります。

あとは、せっかく絵金の生まれ故郷でやりますし、絵金は高知市で生まれておりますので、はりまや橋商店街の方と一緒に何かやれないかなと思ひ、大々的にはできなかったのですが、宣伝と一緒にやらせていただき、あとは香南市赤岡町で行われる冬の夏祭りのPRもさせていただきます。

このような感じで進めていったイベントですが、入場者数は99人ということで少し少なく、特に最後の夜が極端に少なかったというのが残念でした。反響としては、かなりいい反響を得られました。助成を受けたことによって、やはり遠方なので交通費の面をフォローしていただけたことが大変良かったと思います。今後は、土佐の祭礼と絵画文化について、さらに広く行っていければいいかなと思うのですが、横田恵さんの講演を聞いて、祭礼文化が残っているということにすぐ感動をしました。これは点と点が繋がってフラットになるのではなく、その地域地域の素敵な輝きのある玉が光っていくと大きな玉になっていく。それが数珠のように繋がって、一つ一つが美しい光を輝かせていくことが一番大事だなという気がありましたので、それを頭に置いてまた今後の活動に続けていきたいと思っています。

□意見

・代表者の方の求心力、その強い思いによって皆さま協力を得ることができたのだと思います。少人数でこの舞台を仕上げるまでの過程の動き、ご苦労、地元の人々との交流等々、舞台を見るだけでは作品を理解し評価できないという思いがいたしました。絵金は赤岡の伝統文化を支える人物ということですので、絵金をベースに置き、その切り口を変え、歴史と結びつけた地域の祭礼の文化等も含め、巾を上げた地域の伝統文化・土佐の伝統文化の普及に貢献していただきたく思います。思いの強さが感動を生むことがよくわかりました。

⑩イノビエンナーレ(令)



イノビエンナーレは、いの町を舞台にしたアートイベントの総称となっています。内容としては、企画部門と公募部門の大きな2つの柱を中心に、それ以外にも大小様々な関連イベントを含めた総称の名称がイノビエンナーレです。

まずは、大きな柱の一つである公募部門イノビ・アワード、いの美術展についての説明です。紙の博物館を会場にし、作品の公募を行って県内外、国外から作品を募集して展覧会をしました。通常の公募部門と少し違うのは、今回、審査を事前にせずに会場に作品を展示した状態で審査をするというアンデパンダン形式ということと、もう一つは審査内容を全てオープンにするという公募展となっております。年

齢、国籍、職種、プロ、アマ問わず誰でも参加できる公募展です。審査員に未来美術家の遠藤一郎さんをお招きして、審査をしていただきました。会場の作品を見ながら、全て公開する審査でしたので、大賞候補をどれにするかという関係者の内容も全てお客さんの前でやるということが非常に新しかったと思います。46作家、61作品が集まりました。内容としては、現代美術色が強い公募展だったと思います。

もう一つ、イノビエンナーレの大きな一つの柱が企画部門のイノビ・オーダーというものです。これは、いの町の商店街の空き店舗や古民家、倉庫等を展示場所にして県内外の様々なアーティストの作品を展示するという内容です。いの町も過疎とまではいきませんが、活気がどんどん無くなりつつあるので、今回の美術展もイノビ・オーダーも、毎回会場が全然違う場所になっていて、前回使った会場が今回は更地になっていたり、前回古民家だったお家が今回積水ハウスになっていたり、何かすごく移り変わりがあり、今回は何とか使える8会場を使わせていただきました。なはり浦の会さんも古民家を使って町歩き展示をされていますが、いの町は例えば江戸時代や明治、大正の古い建物がもうほとんど現存しておりませんので、普通の建物を使うような感じですが、だからこそ新しい場所の価値みたいなものも、発

見できるのではないかなと思います。

オープニングイベントは、基本的に関係者の交流会みたいな感じですが、カラオケスナックを1日限りでオープンしました。関連イベントとしては、11月23日に大國さまの秋の大祭があるのですが、そのときに商店街に多くのテキ屋さんや、青年部さん、商工会さんのお店が出るのですが、その中にイノビ実行委員会で「しょうがみ様」というショウガの神様のオブジェを作って展示を行っています。もう一つの関連イベントとしては、同じく11月23日の夜に紙の博物館が夜オープンする夜の紙博というイベントがありまして、そのときに紙の博物館の中庭を装飾するというのをイノビ実行委員会でもやりました。具体的には、中庭に5mの長さの10cm幅の紙の帯を垂らして、それで中庭を埋め尽くして洞窟を作るというイベントですが、総延長距離が50kmという紙のロールを徹夜で5mずつカットするという地獄の日々が続きしました。ただやってみるとかなり面白くて、これは良かったかなと思います。11月30日にクロージングイベントとして、会場の1つである琴風亭でパフォーマンスとライブを行いました。これも一つ良かった点としては、今回助成をいただきましたので、ゲスト作家として台湾から李潔欣というコンテンポラリーダンスのアーティストをお呼びしました。台湾との繋がりがすごくできて、これはこの後の事業にも繋がるのですが、今後国外での活動の足掛かりになるのではないかなと思います。

□質疑応答

Q:大変楽しく拝見させていただきましたが、私が行きましたのは大國さまの大祭の日でしたので、参道のにぎわいと各会場の寂しさというのが好対照でした。また、ピエンナーレ、アワード、オーダーとかといったカタカナの非常に耳になじみがいい言葉が並んでいるのですが、その中身をどれほど地域の方に理解していただいているのかというのがあります。そういうクールな方向性というのを前面に出して、それを受け入れてずっと10年くらい開催しているの町の懐の深さというものを感じて、大変感慨深いものがありますが、こういったクールな方向性を今後も続けていけるのでしょうか。

A:11月23日の大祭のときにお祭りがにぎわっていて、展示会場が閑散としていたというのは、基本的に展示会場には必ず一人スタッフを付けるようにするべきところですが、紙の博物館の夜の紙博の会場の準備に総動員で行っておりまして、会場が手薄になってしまったところは反省点だと思います。全体の大きな問題点の一つとして、スタッフ不足というのがあります。それは今後の一番の大きな課題だと思っています。

⑪いっとひょう沈下橋アートプロジェクト



松葉川青年団の名前になっている松葉川という地域についてご説明をさせていただきます。中村があつて、窪川があつて、大野見と窪川の間のくらの辺りが松葉川地域です。四万十川流域の文化的景観の中で高南台地区域というところがあるのですが、そこにかなりかかっている、四万十川の清流を生かして開かれた田園の継承地と言われております。正に田園があつて橋があつて川があつてという感じのところで、今回のプロジェクトの由来となっているのが一斗俵沈下橋という沈下橋となります。

松葉川青年団という団体は、昨年約30年ぶりにこの松葉川地域に復活した団体ですが、この松葉川地域に2つ小学校があるのですが、生徒数が少なくて統廃合しそうだとか、少子化でどうなるのかなど、そういうことを考える団体として発足いたしました。そういう若者が集まっております。

実際どうするかということで、アートな視点と方法で一斗俵というものを探ろうということを考えました。一斗俵沈下橋というのは実は四万十川に架かる一番古い沈下橋なのですが、地元の人からしたら、あつて当たり前のもとなつています。それを外部の視点で、どういう魅力があるのかというのをアートを作ることでもう1回知ろうという企画になります。

流れとしては、9月に1回アーティスト、大学生も含めて現地リサーチをして10月に制作、11月にイベントとガイドツアー

を行いました。

現地の町を歩いてみたり、実際の川を見たりし、地域の古老と言われる方々に話を聞きにいったりということを行いました。その結果を元に1、2カ月掛けて大学生と高校生が話し合い、その結果が作品になってくることがありました。アーティストが考えたことを小学生に手伝ってもらったりなど、ワークショップなども含めているとやっております。

アート作品が完成し、11月23日に展示とガイドツアーを行いました。作品を展示した上で小学生が担当するツアー、高校生のツアー、あと僕ら青年団が行う夜のツアーというのを開きました。実際これをしてみたところ、地元小学生、高校生と外部の大学生、高知に関わらず大学生を呼んで行ったので非常にいい刺激になったと思います。窪川高校は引っ込み思案な子が多いのですが、その子たちが結構積極的になったというふうに報告を受けております。

リサーチのときは、青年団は半分が地元出身者で半分が移住者なのですが、地元出身者でも知らない情報が出てきたり、そんなことあったのだというのがあって、それが青年団自体の活動の方向性に繋がったりしています。実は200人集まっていたら、取材していただきました。

今後としては、大学生が作った河童の作品があったのですが、これ自体は河童の口伝で伝わっているお話を基に作った作品でした。それに刺激を受けて、その話の続きを作ったかどうかという話が地元の方から出たり、青年団としては米奥という地域以外のところでもいろんな企画を始めてみようとか、青年団30年ぶりの復活なので、やっぱり歴史史上に立ち返って何かないのかっていうことを考えたりなどをして、いろいろと活動に繋がっているところです。

また、アートプロジェクトをやってみての感想ですが、松葉川地区にある一斗俵沈下橋で地元米奥小学校の児童や、窪川高校の生徒、県内外の大学生、アーティストなどたくさんの方のご協力の下、山・川・大地をテーマに行った今回のプロジェクトでは、自然の中でアートを楽しむだけでなく、地元の方を始め、たくさんの方の笑顔やぬくもりを感じることができました。これからも、地域の資源である自然や人を通じて自分たちができる楽しいを形にしながら地域を盛り上げていきたいと思います。

□意見

・一斗俵は国の登録有形文化財になっていて、一番古い沈下橋です。沈下橋というのは向こうの集落とこちらの集落を繋ぐ橋となっておりますので、今後もしやるとしたら2つの集落に展開をかければ、非常に面白い全体的な地域活動に繋がると思います。

ここはもう1つ国の文化財が入っておりまして、四万十川流域の重要な文化的景観という構原・津野・中土佐・四万十町・四万十市、その町村連携、5市町連携です。それが10年前に選定受けたままになっておりましたので、こういうイベントはここが初めてでした。そういう意味では、四万十川流域では一番先頭をいっている活動ですので、ぜひ続けていただきたい。また、四万十川というのは全国で発信できる名前ですので、古い文化財に新しいものを付加することによって地域の活性化を図ることができれば一つの大きな事例ができるだろうという気がしております。期待しています。

⑫高知・神戸 演劇協働制作プロジェクト「行き止まりの遁走曲(フーガ)」



関西と高知の俳優さんとスタッフさんが集まりまして、協働で作品を作って高知と神戸で上演をするという企画となっております。一番最初に脚本と演出家の久野那美さんという大阪在住の方ですが、大阪で積極的に活動をされておりまして、幾つか賞の受賞経験もある脚本家、演出家の方になります。あと、私吉田は、高知市文化振興事業団で文化の仕事をしているのですが、個人で舞台公演のプロデュース企画制作を行っており、今回公演を行いました蛸蔵という劇場の運営をやっております。

僕の企画で2018年にタネマキカクというプロデュース公演で、高知の若い俳優さんのスキルアップを目指した演劇公演というのをやりました。このときの作品で久野那美さんの「・・・」という企画を使わせていただきまして、上演申請等の、やり取りの中でぜひ高知に見に行かせてもらいますということを言っていたら、実際見に来ていただき、いろいろな交流をさせてもらって、逆にこのタネマキカクに出

演していた俳優さんと一緒に久野さんの作品を大阪に見に行くなど、そういう形でご縁ができました。久野さんに蛸蔵という劇場を非常に気に入っていただいて、何か一緒にできないでしょうかというところから話が進んでいった今回の企画となりました。

昨年、2018年のときから久野さんと繋がりが生まれまして、2019年の3月、4月ぐらいに一緒にやろうという企画を考えていきました。4月中に大体の概要を固めて、5月になって出演者の募集をかけました。このときまだ芸術祭の申請が始まったくらいで、とれる見込みが見えていないけれど、まあ大丈夫かなといったところで、予算的にも芸術祭のお金をいただく前提で先行して進んだということになります。

高知新聞さんで、5月13日に出演募集ということで取り上げていただきました。5月末で締め切りまして6月4日にオーディションワークショップを行いました。最終14人の参加で大阪からの俳優さんも来られて、一緒にワークショップを行い、14人のオーディションの中で最終高知から出演される方が3人となりました。高知と大阪からの出演者が決まり、7月7日に兵庫県の明石市で宣伝素材の撮影を行いました。この日1日しか取れなくて、前日すごい雨でしたが、たまたますごく天気が良くて良かったです。この宣伝素材撮影の後にチラシが出来上がりました。出演者は、関西から4人の方、その中の山村誠一さんという方は演劇畑の人ではなくミュージシャンです。高知県の観光特使にもなられてまして、スティールパンの演奏で吾北のほうでパンの学校というのを上東地区でやられてもう15年くらいだそうです。今回僕が出演者募集のご案内をかけたときに、もともと繋がりのある方だったのですが、ぜひやらせてくれと言われました。けど演劇ですよという話をしたのですが、関西と高知を繋ぐといったら俺しかおらんやろと。そういう経緯で出演いただきました。高知からは、3人の俳優さんが出演しました。出演者以外のスタッフも高知と関西のスタッフさんが協働でやることになりまして、これが非常に大きかったなという思いです。僕自身が制作で入っているのですが、制作の仕方も大阪のやり方であったり、久野さんが普段やられている制作の仕方を少し学ぶことができました。あと、舞台監督・照明で葛西健一さんという方、京都の方ですが、ヨーロッパ企画という有名な劇団で照明をされておりまして。彼が舞台監督と照明で入ることで高知の他のテクニカルのスタッフもすごい勉強になった、刺激になったと思います。

稽古は7月から開始しました。当初は大体30数日間だったのですが、大阪パートを大阪で作り、高知パートは高知で作る、重なる部分を何カ所か合同で稽古する予定だったのですが、先ほどの山村さんが来てくれることで山村さんの車と一緒に乗ることができる。じゃあできるだけ混ざって作るようにしようということになって、当初の予定から稽古がかなり増えていきました。

滞在については、基本僕の家で泊まっていたいただきました。後半から一部市内のゲストハウスの方々に協力いただいて安価で滞在させていただきまして、最終80日間僕が家に滞在していたことになりました。

この他、ワークショップを開催し、作品の理解を深めてもらう、体験してもらうということで中学生、高校生、大学生の若い方に参加していただきました。

メディアでの告知では、高知新聞さんで大きく取り上げてもらったほか、ラジオやテレビ等、いろんな形で出してもらいました。またステージナタリーなどウェブ系の演劇メディアや、ヤフートピックなどにも実は出していただきました。

小屋入りして、いろんな形のテクニカル、みんなが集まりました。作品としては、「行き止まりの遁走曲(フーガ)」とは、行き止まりというのが高知という土地はどういうところか。文化が実は滞留していく、先がない、いろんなところが入ってくるけれど次に行く道がなかなかないところだということを話して、それを着想して港という絵を舞台に作るという話になっております。

入場者数は、蛸蔵で3公演行い、合計180人の方にお越しいただきました。収支的には助成金をいただいて、入場料収入をベースでいろいろやってできるだけいろんな経費を抑えて高知公演で大体73万円くらいとなっております。神戸と合わせると大体160万円くらいかかる予定です。

高知公演を振り返って、当初から稽古が大きくなってしまっただけでそれによるクリエイションのすごく丁寧に作れた面と、それぞれの7月から12月本番で長期間すごいストレスとかプレッシャーが出てきたのも事実です。また、これまでにない作品、久野さんの作品というのは非常に独特の作品でして、高知でなかなか見る機会がない作品ができたのではないかと思います。あと人材育成面でも非常に良かったです。一方で話題性の拡散、外部の巻き込み方、やはり自分たちの身内で固まってしまうというところがどうしても課題として残っていて今回のことでもっと本当は切り込めたのではないかと感じております。収支面でもできる限りということで、皆様のギャランティーが非常に低い状態だったということが一つ反省になっております。

□質疑応答

Q:神戸と高知の演劇のスタッフ、出演者、皆さんが合同で作って双方にいい刺激を与えるというところでは非常に意義のある公演だったと思います。

演劇を見慣れている人にとっては「ああ、そういう発想か」とか、何かこういう使い方が（舞台の使い方も含めて）あるのだなというところを楽しませていただきました。レベル的に、上の上クラスに入る演劇だったのではないかなという感じがいたしました。チラシもこのワンカットを撮るのにすごく時間が掛かっていて、圧倒的に素晴らしい。切り取り方や動き、色など、本当に綺麗なチラシができていると思うのですが、一般の全く演劇を知らない人から見れば、何をやっているのだろうとわかりづらい、少しハードルが高いかなという感じはしました。

A:作品的内容的には、あらすじがないような作品で、見るお客様の想像を刺激する。登場人物の前後がほぼ書かれておらず、それをどこかに照らし合わせるというような作風だったので、一言で説明しにくい難しい作品だったかなというのは間違いなく思っております。今回のチラシも最後右上に演劇と書きました。演劇と書かないと何のことが分からないので。

⑬冬の夏祭り25回記念プロジェクト『赤岡てらこや』



赤岡町は、おどろおどろしい血生臭い絵で知られている幕末の絵師、弘瀬金蔵、絵金が住み、23枚の屏風絵を残している町です。7月には絵金祭りが行われ、その絵を町家の軒下に置き、ろうそくの明かりで見ることが出来ます。弁天座では地元のメンバーによる土佐絵金歌舞伎伝承会が芝居絵の演目を行っています。4月にはぐーっとぐーっと地酒早飲み大会で有名などるめ祭りがあります。そして12月にはお助けマンで一杯になる、昔はコンセプト、町民全員参加赤岡ブランド赤岡スタイルをアピール。道の上にこたつを出しておもてなし。2階から餅が急に降ってくる。突然綱引き

が始まる。落ち葉のリヤカー。冬なのに夏祭り。町はごった返しの大劇場になります。

ところが、普段の赤岡町は澄み切ったくらい人通りも少なく、40軒あった店も今では7軒。そして70歳以上70%、自然の流れに逆らうことは難しく、いろいろやっても現実さは厳しいです。それでも生き残る道はないかと探し求めている私たち。けれど、赤岡のことを知っているようで深くは知らない。教えてくれる人が元気なうちに、あれもこれも教えてもらうちよかないかんでねえ。ということで「赤岡てらこや」始まりました。

お祭りの時に開催しようと思っていた、てらこやですが、お祭りで開催した場合、実行委員が参加できなかったり、人手が足りなかったりするので、お祭りの前に4つ開催しました。

まずは、亀の薬細工のてらこやです。先生は浜口瑠美子先生です。るみちゃん先生は少し前にこの亀の薬細工を習って1人でコツコツ作っていました。薬は赤岡で農業している方に分けていただいて、そしてるみちゃん先生が「私が先生なんて」と言いながら、前もって来て薬をさばいたり、トントンたいて柔らかくしたりしてくれました。このるみちゃんの姿勢を見て私たちも準備頑張らないといけないと火が付きまして。

次は、みんなで踊ろう赤岡慕情です。冬の夏祭りでは、みんなで踊ろう赤岡慕情をやっているのですが、参加者が少ないので、踊りの練習をてらこやとして開催しました。実行委員も参加して、子どもたちも参加して、民謡チームの皆さんが練習している弁天座でやりました。本番もたくさんの方が参加してくださり、民謡チームの先生方がとても喜んでくれました。

下駄の鼻緒すげ。実は私が先生です。私は履物屋間城に嫁ぎ、母から下駄の鼻緒すげ方を習い毎日すげていました。最近ではあまりすげない人がないので誰かに伝えていかないといつも思っています。

次は、赤岡シャポーをつくろう！を開催しました。これは冬の夏祭りでプチ仮装をする時のアイテムです。毎年、赤岡シャポーを作る人はいるのですが、初めての方も来ていただいてみんなで楽しく作ることができました。沖繩から香南市に向向で来ている、キャン、ウララちゃんも、何と当日赤岡シャポー売りの売り子になってくれました。こういう繋がりがいいなと思います。

冬の夏祭りの当日に開催した、てらこやを紹介します。やっぱり赤岡といえば絵金です。絵金よもやま話です。これは昔、絵金蔵の元・蔵長の横田恵さんに先生になってもらいました。赤岡の昔の写真や、絵金祭りの写真を使って地元密着型の親しみやすいてらこやになりました。これを機に絵金蔵、そして野市町のアクランドにも行ってもらうきっかけになったかなと思います。これからも続けたいと思います。

いけばな入門。この先生は、武内先生は高知市文化教室でお花を教えている先生で、よく赤岡に来てくださいます。いけばなは大人気でした。道の上に畳を敷いて、先生のお話も楽しく、近くに咲く花をいかし、花をいける楽しみのきっかけとなったという声をいただきました。

お習字手習いです。長崎久子先生がやってくれたのですが、彼女はお習字の先生です。普通の筆で書くのは面白くないだろうということで、野の草、藁、ススキ、猫じゃらしなどで筆を作って持って来てくれました。路上で開催したので、通りすがりのいろんな方が参加してくれました。

かっこう笛。高知の木で鳥とバードコールを作り続けている堀田先生です。今回、てらこやの先生としてお願いしたのは、かっこう笛づくり。たくさんの人の中で生徒を見つめるのは大変、子どもを見つけては「カッコウ、カッコウ」と猛アピール。興味を持った子どもたちと堀田先生とのてらこや、初めてのナイフの作業、新鮮で先生も生徒も大喜びでした。

次は赤岡バルてらこやです。これはもともと町中にカウンターバーがあったらいいなというのをつぶやいていたら、エンドウさんがいいよと言って手作りのカウンターを作ってくれました。この方は外国でいろんなことをプロデュースしている方ですが、地元の食材を使ったおいしいてらこやを作ってくれました。

この助成金のお陰で、てらこやの横断幕やシルクスクリーンの原稿なども作らせていただき、のれんを作ったり、江戸時代の屋台を模したような看板づくりなどをさせてもらいました。

町のおんちゃん、おばちゃんから教えてもらいたいことがある。町の若い者に伝えちよきたいことがある。赤岡ならではのものを習うのが赤岡てらこや。そして、今知りたい、学びたいを習うのが赤岡てらこや。今後、赤岡の歴史や昔話を習ったり、新しいことにも挑戦しながら定期的に続けていきたいと思います。

□意見

・賑やかな頃の赤岡商店街を知る者の一人として、最近は人通りもまばらだと聞き寂しく思っていました。久しぶりに伺いまして、日曜市と見間違えほどのお客さんがいるのでびっくりしました。裏方の皆さんが支えているのだと思いますが、ぜひ今後とも、継続して頑張ってもらいたいと思います。私が手習いのてらこやで、最初はあれ？下手な字やなあと思い見学していたら、自然の野草などで作った筆を使っていたので感心しました。そういういろんな知恵やアイデアを出して、楽しい祭りをぜひ継続していただきたいと思います。

⑭ライブと演劇のタベ@立岡二号棧道『ギンガテツドウの夜』



実施はできませんでしたが、事業をさせていただきました過程のご報告をさせていただきたいと思います。その前に、この事業を開催することになったきっかけをお話します。皆さんは中芸地区で森林鉄道が走っていたことをご存じでしょうか。立岡二号棧道というのが田野町にありますが奈半利町の奈半利川に架かっていたということや、記憶に残っている方というのも多分、70代とか80代以上の方々ではないかなと思います。そういった森林鉄道が走っていて、どういう歴史があったのか、そういう昔語りを会員の皆さんがしています。そこでカフェをしたりライブをしたりというように

「隧道カフェ」もこれまで6回程開催させていただきました。ただ、それをしていった中で、中芸地区の皆さんと一緒にできていたのだろうかというようなことをずっと会員のみんなが課題として反省としておりました。そういったこともあって、少しずつ何かできないだろうかと言っていた3年前に、森林鉄道と中芸地区は馬路村、北川村、あと安田町にもユズが特産としてなっておりますが、そのユズと森林鉄道、そして中芸5町村にある文化財を含めて日本遺産にも認定されました。それをきっかけとして、何か中芸地区のみんなと一緒にできるイベントができないだろうかということで10月12日

から14日にイルミネーションイベントを開催することとなりました。立岡二号栈道は田野町の田野駅屋から車で5分くらいの所にあります。KOCHI ART PROJECTSの助成としましては、イベント内の歌と演劇のライブで助成をしていただくことになりました。

それでは、どのように企画して準備をしていったかという、イルミネーションデザインの島田正道さんに森林鉄道とユズというテーマで何かしらイルミネーションを考えてくれないだろうかとお願ひしました。すると、杉とヒノキを使った、地球儀大くらいのイルミネーションを考えてくれました。ユズの形をしています。立岡二号栈道の下のとこに田んぼがありますので、田んぼのオーナーさんにも協力していただいて、田んぼにこれを刺していったら400個イルミネーションしていくこととなりました。このイルミネーションは、暗くなっていってセンサーで明かりがついていくというような形にさせていただきました。このイルミネーションを生かして、私たち森林鉄道保存会や、共催としては中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、そして田野町に協力をしていただきまして、ワーキンググループをイルミネーション班や機関車班、ゆずランプ班、ライブ班、グルメ班というように5つのワークグループを作り活動しました。ライブでは、地元の子どもたちがします烈士太鼓「燦・燦キッズ」、「サンドイッチパーラー」さんはこれまでも隧道カフェで何度かご出演いただきました。あと、奈半利町で活躍している「バンカース浜中」さんに歌ってもらう。そして、「おさらい会」の皆さんに『銀河鉄道の夜』、魚梁瀬にある、ふるさと劇団「杉ぼっくり」の皆さんに『森林鉄道物語』を上演していただき、安田町で活躍している「豆電球」さんに歌っていただくというようなライブを予定しておりました。

ゆずランプですが、400個じゃあ誰が作るのというような課題があります。だったら、中芸地域の皆さんとこのイルミネーションイベントを作っていくということで、ゆずランプをみんなで作ってイベントを作り上げていくというふうにしました。そこで、夏休みに小学生を対象としたワークショップを開催することとなり、馬路村のあったかふれあいセンターで地域のおじいちゃん、おばあちゃんと小学生と一緒に作りました。その他、中芸高校生にも作ってもらったり、地元の団体の皆さん、大橋通りで外国の方々が集まるイベントでも作ってもらったり、中芸地域のPRも兼ねてこういったランプを作るワークショップなどをしていきました。

また、高知新聞でも掲載していただきました。地元の田野町の業者の皆さんが立岡二号栈道の下に古い小屋が残っていたものを無償で、地域貢献で協力させていただきということで提供して下さったりもして、地域の皆さんにご協力いただいたのですが、残念ながら台風で中止となりました。ですが、中止決定の際、田野町から12月21日にクリスマスイルミネーションがあるので、ぜひ一緒にやりませんかと声を掛けていただきましたので一夜限りではありますが開催させていただきました。

事業を企画していく中で、ボランティアの皆さんや実行メンバーから「中芸地域の住民と一緒にって取り組んだ企画が少なかったんで、一体感ができて良かった」「良い機会がとれた」という声がありました。反省点は、延期策が採れなかったということです。企画の段階でも延期を採ろうというようなことがあったのですが、地元の皆さんや出演の皆さんのご苦勞がすぐ出るのじゃないかなということで、もうこれは一回限りにしようと考えておりました。ですが、今日も皆さんの話を聞かせていただいて、みんなの努力を活かすには延期策、考えなくてはいけないと反省したところです。

今後もこのランプをいかして様々なイベントをしていきたいと思っておりますので今後ともご協力をお願いしたいと思います。

□質疑応答

Q:この作成したゆずランプ400個はどこかの倉庫に保管しているのでしょうか。

A:作っていただいた方々にはお礼という形でお渡ししました。ただ、1つの団体で、1人2、3個作った人たちもいます。そういったことで200個くらいは、安田町の結いの丘ドームに保管していただいて、今もうちの町や村でのイベントに使いたいという声もいただいております。

★意見交換★ ※一部抜粋

Q:COMFAさんとAiRLite Kochiさんでは、収入に企業の協賛金が入っておりますが、これはやはり主催団体のコネクションなどを通じて、ご厚意をいただいたということでしょうか。

A:私は以前、映画会社に勤めておりました。そこで、デスクワーク的なことをやっていた経験上、パブリシティをいかに使うかということはかなり長い期間実践でさせていただいております。行政などからいただける費用は非常に有り難いですが、上限があるので、私たちがしなくてはいけない事は何かかなと思っていたら、やはりその地域の方々が盛り上げるという意味で地域の企業さんにもっと積極的に動いていかなきゃいけないと思いました。あとは笑い話になるかもしれませんが、常屋町の夜のお店に行っているいろいろとお話をし、ここに何かこういう人來ませんかと言ったら、どここの会社の社長さんが來ますよと言われたので、それはいいチャンスだということで、そのママさんに紹介してもらったというやり方もしました。

営業の場合はその企業さんの商品を取り込んでいったりとか、企業さんのイメージを映画の中に盛り込んでいったりとかいうこともできますので、そういった考え方で芸術と企業さんをうまく取り込んでいくという今後の戦略を考えていけば、うまくいくのではないかなというふうには私は思っております。 ※COMFAによる回答

A:協賛を寺村葬儀社とJEANS FACTORYさんからいただきました。メキシコでアート活動をしているときに、アーティストが何か作り上げていくというのが割と普通な動きがありました。そのときに助成金、協賛金というのが必要になります。普通にみんな手紙を出したり会いに行ったりとかして協賛金をお願いして、そのお金を集めて何か立ち上げていくという動きを特別なことではなくするというふうな動きがもともとありましたので、今回も知り合いではなかったのですが、手紙を書いたり、メディアに対してもメールをいろんなところに送ったりなどして、そこで反応があったところから協賛を受けることができました。恐らく50社ぐらいは送ったと思いますが、2社反応があって協賛を受けることができました。 ※AiRLite Kochiによる回答

Q:テレビ局に取材依頼を送る場合は、メールアドレスとか代表に送っても大丈夫ですか。それとも何か担当の人がいらっしゃるのでしょうか。

A:よくあるのは、FAXです。電話帳を見て各局の報道や制作に送ってることが多いです。HPでも情報お待ちしてますみたいなものもありますが、やはりFAXのほうがどちらかというとお勧めです。中にはチラシを持って直接来られる方もいらっしゃると思います。「何月何日に取材の依頼をしたいのですね」ということで担当者に熱意を直接伝えると、大体お断りをしないし、わざわざ来てくれるのだからというのでポイントはかなり高いと思います。

※メディア関係執行委員による回答



第48回高知県芸術祭文芸賞

募 集 要 項

募集部門

短編小説(1人1編)／詩(1人1編)／短歌(1人3首以内)

俳句(1人5句以内)／川柳(1人5句以内)

※()内は応募できる作品数

作品送付先

〒781-8123 高知市高須 353-2

(公財)高知県文化財団内

「高知県芸術祭実行委員会事務局」にて

締切日

2019年9月30日(月) 当日必着

応募条件

未発表作品であること。応募者は高知県在住者に限ります。

※私的な会や学習会で発表した作品、メンバー内での回覧、資料とするための目的で活字化した作品は「未発表」とみなします。

※その他、上記の条件等に則り、事務局が判断する場合もありますのでご了承ください。

作品への記載事項

①部門名 ②氏名(フリガナ)※ペンネームで使用する場合は併記 ③住所 ④電話番号 ⑤年齢を必ず明記してください。

記載場所等は部門ごとに異なります。(下記表参照)

鉛筆またはシャープペンシルの場合は、H B以上で濃くはっきり書いてください。

部門ごとの注意事項

部門	記載方法・注意事項
短編小説	■作品本文は 400 字語原稿用紙 10 枚。 ■パソコンの場合、20 字 × 20 行で設定してください。 ■必ず、作品本文にページ番号をふってください。ホッチキス留めは不要。 ・1 枚目：タイトルを明記 ・2 枚目～11 枚目：作品本文 ・12 枚目：部門名・氏名・住所・電話番号・年齢を明記。
詩	■作品本文は 400 字語原稿用紙 2 枚、37 行以内。 ・1 枚目：1 行目上方に部門、作品名、2 行目下方に氏名を明記。 (3 行目はあけて) 4 行目から作品本文を書き始めてください。 ・3 枚目：住所・電話番号・年齢を明記。
短歌・俳句・川柳	■通常はがきを使用してください。 ※学校から、まとめて応募の場合は、はがきサイズの用紙へ記入しても可。 その際、ご担当教諭名を封筒に記入してください。 ■全部門とも自由題。作品は横書き・タテ書きで書いてください。 ・はがき表面に部門名を必ず記入してください。 ・氏名・住所・電話番号・年齢 は作品末尾に記入してください。

発表について

①入選者名は 11 月上旬、文芸賞受賞作品の全文は 11 月中旬～下旬頃、高知県芸術祭公式ホームページ上でそれぞれ発表予定です。公式 HP <https://www.kochi-art.com/>

②入選作品は「高知県芸術祭文芸賞入選作品集」(12 月中旬発行予定)に掲載します。

③文芸賞および文芸奨励賞受賞者の方は、表彰式において表彰状と副賞が授与されます。佳作受賞者には表彰状が授与されます(郵送予定)。

※表彰式：12 月 15 日(日) 高知県立文学館ホール(予定)※

詳しい情報については [高知県芸術祭](#) で検索！

応募状況と入選者数

	応募総数	応募人数	文芸賞	文芸奨励賞	佳 作
短編小説	37編	37人	1	2	1
詩	47編	47人	1	5	5
短 歌	317首	121人	1	5	6
俳 句	717句	255人	1	5	9
川 柳	473句	108人	1	5	8
合 計	1591作品	568人	5	22	29

表彰式

開催日：令和元年12月15日(日)

会 場：高知県立文学館ホール

※表彰式への出席は、文芸賞・文芸奨励賞受賞者



副 賞 文 芸 賞 表彰状、VJAギフトカード、PARKERボールペン

文芸奨励賞 表彰状、VJAギフトカード、PILOTボールペン(小学生の受賞者は文具セット)

佳 作 表彰状、VJAギフトカード

第48回高知県芸術祭文芸賞 入選作品一覧

部門	賞	市町村	氏名	題名(ただし、短歌、俳句、川柳は作品)
短編小説	文芸賞	高知市	柴田 由	ノエルのできごと
	文芸奨励賞	高知市	弘瀬 誠一	自立癖
	文芸奨励賞	高知市	下元 真人	少女A
	佳作	高知市	曾我部仁志	鷲尾山山頂にて
詩	文芸賞	高知市	前田 高昌	夏の終わり
	文芸奨励賞	高岡郡四十町	山本 由美	白いカーネーション
	文芸奨励賞	高知市	千里 日月	西行の夢
	文芸奨励賞	南国市	宮本 泰子	再生
	文芸奨励賞	高知市	大野 仁志	静けさの中で
	文芸奨励賞	土佐市	石川 志津	ループ
	佳作	香美市	恩田 凍羽	あおいろ
	佳作	土佐市	奥村 真眉	すだれ
	佳作	高知市	宮地 令子	香り
	佳作	須崎市	倉橋 孝彰	ああ、友よ
	佳作	高知市	文月 奈津	ひとり語り
	佳作	高知市	尾崎 淳	特攻を志願する者諸の字を 選択肢なき回答用紙
短歌	文芸奨励賞	土佐市立高岡第一小学校六年	矢野安祐例	赤とんぼ仲間を呼んで会議するなんだと聞くと青とんぼ
	文芸奨励賞	高知市	高橋 治光	平成の時を刻みしな板に棄せて新たな元号を打つ
	文芸奨励賞	高岡郡四十町	多賀 一造	内祝の米の重さが曾孫なりしっかり抱けと添へ書きのあり
	文芸奨励賞	土佐市立高岡第一小学校六年	小西 海鈴	綱引きで服に模様がつきました体操服がオリジナルになる
	文芸奨励賞	高知市	中山 恭子	放浪の啄木父子の歌碑研く建立十周年秋晴れの朝
	佳作	土佐市立高岡第一小学校六年	森澤 鼓十	春が来てサクラと風がおどつてきと二人は恋人だろう
	佳作	安芸郡安田町	西本 明浩	惨禍たる南海地震来し証生家の居間を鉛筆転ぶ
	佳作	高知市	浜田和香子	百歳を迎えし姫の杖の音路地軽やかに令和を生きる
	佳作	高知市	池知さつき	無いものを探してばかりの生き方をやめる 私はここに在るから
	佳作	高知市	渡辺 俱康	南冥をはるか知覧へ還りくる蟹もあり夏の夕べは
	佳作	吾川郡いの町	西原 時子	大杯の一升呑みほす十五秒どうめ祭の浜はどよめく
	佳作	高知市	島村かりん	薄氷をかざして明日を見ておりぬ
俳句	文芸奨励賞	南国市	中村 竹子	色褪せの父の捕魚記を曝しけり
	文芸奨励賞	南国市	澤村 正彦	五臓六腑すこやかにして無月かな
	文芸奨励賞	南国市	山崎 光子	螢袋の中に宿る山頭火
	文芸奨励賞	須崎市	徳永 逸夫	昼寝子のまだ土知らぬ土ふまず
	文芸奨励賞	土佐市立高岡第一小学校五年	藤田ゆずあ	かたつむり葉っぱのうらがひみつきち
	佳作	高知市	松村 知香	昼暗き雄幸の生家枇杷熟る
	佳作	吾川郡いの町	山下 正雄	老犬の緩みしリード解雲
	佳作	高岡郡佐川町	浜田 博子	生盆に新広辞苑奉る
	佳作	香南市	乾 真紀子	泣いてすぐもの喰ふ葬り鳴高音
	佳作	高知市	浜田 節	友のゐるただそれだけの良夜かな
	佳作	安芸郡田野町	矢田 光央	父の日や父の汗した畑に立つ
	佳作	高岡郡佐川町	駒木 基克	つづれさせ蟹が炊きの石の重
川柳	佳作	高知市	西込 とき	軍旗焼きし戦士の御魂ほととぎす
	佳作	土佐市立高岡第一小学校六年	小西 海鈴	サワガニが忍者のように走ってる
	文芸賞	高岡郡越知町	織田 裕一	筆先を整え澄んで来ころ
	文芸奨励賞	香美市	森本 幸美	饒舌な地球に神の傲が飛ぶ
	文芸奨励賞	吾川郡いの町	岡林 裕子	理由あって雲の後ろを通る月
	文芸奨励賞	高知市	桑名知華子	許そうかあんな大きな虹が立つ
	文芸奨励賞	土佐市立高岡第一小学校五年	高橋 清花	せんぶう機どんな事にも首をふる
	文芸奨励賞	土佐市立高岡第一小学校六年	松谷 侑飛	すきやきはのんびりできぬ戦場だ
	佳作	高岡郡四十町	沖 すが子	手のひらにあるわくらほの生と死と
	佳作	安芸市	大坪 邦枝	糟糠の妻の反旗が翻る
	佳作	四万十市	近藤 糾	まだ胸のこぶしは握りしめたまま
	佳作	高岡郡四十町	熊谷 敏郎	繕った恋のお薬手帳出す
川柳	佳作	吾川郡いの町	西原 時子	姥捨の山へ高速道のつく
	佳作	高知市	高橋 治光	娶らずに生きた男の風の音
	佳作	土佐市立高岡第一小学校四年	川崎 夏歩	台風が口ふえふいて木をたおす
	佳作	土佐市立高岡第一小学校五年	山本 咲愛	ガタガタと手あらな風のノック音
	佳作	高知市	山本 咲愛	ガタガタと手あらな風のノック音

文化人交流事業『大前光市 トーク&パフォーマンス』

開催日:令和元年12月2日(月)【開場18時30分 開演19時】

会場:高知県立美術館ホール

来場者数:298人

第69回高知県芸術祭主催事業『文化人交流事業』として開催。

講師には、リオパラリンピック閉会式や2017年第68回NHK紅白歌合戦でのパフォーマンスで注目の義足のバレエダンサー大前光市氏をお迎えし、「誰にでも輝ける場所がある」をテーマにパフォーマンスを交えながら講演をしていただきました。



実際に義足に触れる体験も行われました。最初は、皆さん恥ずかしそうでしたが、数分後には大前さんの前に多くのお客様が並ばれ貴重な機会を楽しんでいらっしゃいました^^



最後に披露されたパフォーマンス「さくらさくら」では映像と音楽に合わせ日本の美を表現してくれました。

講演後には、観客の皆様から質問タイムが設けられ、各々の質問に対し、真摯にお答えくださる姿が印象的でした。来場者の中には実際にダンスやバレエを学ばれている幅広い年代の方々も見られました。講演会に参加した事が自分の「輝ける場所」を見つけることの第一歩となれてたら良いなと感じました。

ご多忙のところご来高くださった大前光市さん、講演会開催に際し、ご協力いただいた関係各所の皆さま、本当にありがとうございました。またのご来高をお待ちしております！
(文責:政岡知実)

◎共催行事

※記載内容は原則として事業実施報告書の記載に則しています。

※開催日（部門別）の順に掲載しています。 ※参加者数は、芸術祭会期中内での集計となります。

部門名	行事名	主催団体	日 程
演劇	ヨーロッパ企画第39回公演 「ギョエー!!旧校舎の77不思議」	高知県立県民文化ホール 高知市春野文化ホール ピアステージ	令和元年9月21日(土)
	高知パフォーミング・アーツ・フェスティバル2019 座・高円寺レパトリー「ピン・ボン」	高知県立美術館	令和元年11月30日(土)
音楽	高知パフォーミング・アーツ・フェスティバル2019 青木涼子「Nopera AOI 葵」全編版日本初演	高知県立美術館	能レクチャー:令和元年10月12日(土) 本公演:令和元年11月3日(日・祝)
	鈴木翼ファミリーコンサート	高知県立県民文化ホール 香南市中央公民館	令和元年11月24日(日)
美術	県美コレクション出張プロジェクト 高知県立美術館洋画名品展	四万十町立美術館 高知県立美術館	令和元年11月2日(土)～12月13日(金)
映画	高知県立美術館秋の定期上映会 「アラン・ロブ＝グリエ レトロスペクティブ」	高知県立美術館	令和元年10月19日(土)～10月20日(日)
文芸	言葉のチカラ、声の魔法展	高知県立文学館	令和元年9月21日(土)～11月17日(日)
	第22回児童生徒文学作品朗読コンクール 県審査及び記念講演会	高知県立文学館	令和元年11月24日(日)
総合文化	国史跡・岡豊城跡めぐり	高知県立歴史民俗資料館	令和元年6月27日(木)～ 令和2年3月31日(火)
	コーナー展「陸軍歩兵第44連隊とその時代」	高知県立歴史民俗資料館	令和元年8月1日(木)～ 10月14日(月・祝)
	大名墓をめぐる世界 そのすべて ～土佐藩主の病と遺言、葬礼と法要、 神格化まで～	高知県立高知城歴史博物館	令和元年9月13日(金)～11月25日(月)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
高知市春野文化ホール ピアステージ・大ホール	450	今回で連続5回目となるヨーロッパ企画の本公演は今年も満員御礼。いつもと違う会場での実施だったが、特に悪い影響はなかった。これからも多くのお客様に楽しんでもらいたい。
高知県立美術館ホール	556	企画展「ぼくと わたしと みんなの tupera tupera 絵本の世界展」のプレ・イベントとして開催。園児とその保護者という、メイン・ターゲットの方向性が同様のため、相互の告知となった。
高知県立美術館・能楽堂	能レクチャー62人 本公演347人	国際的に活躍する能声楽家の青木涼子を主演に迎え、能と現代音楽が融合した新しい能オペラを上演した。能に関するレクチャーも開催し、古典芸能への理解を深めてもらう機会となった。能楽堂を活かした独自性のある公演になったかと思う。
のいちふれあいセンター・ サンホール	300	遊び歌作家・鈴木翼さんの歌やリズムにあわせて、子どもから大人まで一緒になって歌ったり踊ったり、会場は大盛り上がりでした。音楽を通して自己表現することの楽しさ、コミュニケーションの大切さを実感していただく機会に繋がったと思います。
四万十町立美術館	375	高知県を代表する洋画家、今西中通の故郷である四万十町で、高知県立美術館所蔵の洋画の名品を選びすぐて展示した。高知市から遠方に住むために県立美術館へ来ることが難しい方々に向けて、「県美コレクション」の魅力を紹介することができた。
高知県立美術館ホール	256	名前と文学作品は世界的に有名なのに映画監督としての作品が公開されていなかったために謎だった監督。物語を語るのではなく映像と言葉と音楽と編集で物語そのものを解体していくという試みの作品だった。20代から70代まで幅広いお客様にお越しいただいた。
高知県立文学館・ 2階企画展示室	2,726	本展では、テーマ別に文学表現の面白さを紹介。また、声優の島本須美さん・小野大輔さんを起用し、来館者が多角的に楽しめるよう工夫した。今後も「より分かりやすく・楽しい見せ方」を模索し文学の魅力をお伝えしたい。
高知県立文学館・1階ホール	256	11月24日開催の県審査には、夏の地区審査を経て選出された20名の小・中学生が出場し日頃の練習の成果を披露、一人一人の個性あふれる表現豊かな朗読により会場は熱気に包まれました。また、特別審査委員である島本須美さん(声優)による記念講演会も開催し、「本の中には『うわー!』がいっぱい」と題して貴重な講演をいただきました。
高知県立歴史民俗資料館 (国史跡・岡豊城跡)	28	県内外の城郭や歴史に関心のある人などを対象に、戦国期の山城跡で遺構が残る国史跡・岡豊城跡をボランティアガイド(南国市観光案内人の会)と共に周遊しながら楽しめるガイドツアーを行った。
高知県立歴史民俗資料館	9,003	明治29年(1896)に誕生し、以後高知県の郷土部隊とされた旧陸軍歩兵第44連隊に係る資料を通じて、44連隊の歴史や様相について理解を深めてもらうとともに、初公開となる44連隊兵士の手紙から、当時の兵士の心情などを読み取ってもらうなど、県内外の多くの方に関心をもってもらうことができた。
高知県立高知城歴史博物館	19,412	国史跡「土佐藩主山内家墓所」を取り上げ、大名墓をめぐる藩主の病と死、葬送儀礼と墓所造営、法要と神格化等について展示を行った。山内家資料はもとより菩提寺等の協力も得て様々な関連資料を展示した。ほとんど例のない分野の展示を通して、多くの県民や観光客に「山内家墓所」の存在や大名墓に関連する様々な論題を紹介することができた。また研究者や文化財関係者等も多く訪れた。

部門名	行事名	主催団体	日 程
総合文化	古代ものづくり体験教室 (勾玉づくり、網布づくり、ガラス勾玉づくり)	高知県立埋蔵文化財センター	勾玉づくり:令和元年9月15日(日) 編布づくり:令和元年10月14日(月・祝) 銅鏡づくり:令和元年10月22日(火・祝) ガラス勾玉づくり:令和元年12月15日(日)
	企画展「開創700年記念 吸江寺」	高知県立歴史民俗資料館	令和元年10月4日(金)～12月1日(日)
	特別展「維新十傑－創造・行動・志－」展	高知県立坂本龍馬記念館	【前期】令和元年10月5日(土)～ 11月4日(月・振休) 【後期】令和元年11月8日(金)～ 12月10日(火)
	企画展 鎌倉時代の土佐	高知県立埋蔵文化財センター	令和元年10月13日(日)～ 令和2年4月5日(日) 10/13(日)ギャラリートーク 10/27(日)展示報告会 11/17(日)記念講演会
	ピカピカ光るモンスターキャンディバッグを作ろう	(公財)高知県文化財団	令和元年10月19日(土)
	連続講演会 「幕末キーパーソン 龍馬をめぐる人々」 「坂本龍馬と西郷隆盛」 (講師:落合弘樹氏)	高知県立坂本龍馬記念館	令和元年10月26日(土)
	第42回高知県高等学校総合文化祭 第44回全国高等学校総合文化祭 (2020こうち総文)プレ大会	高知県教育委員会 高知県高等学校文化連盟 第44回全国高等学校 総合文化祭実行委員会	令和元年10月26日(土)～ 11月23日(土・祝)
	龍馬まつりin記念館	高知県立坂本龍馬記念館	令和元年11月17日(日)
	福を呼ぶ城博のお正月	高知県立高知城歴史博物館	令和元年12月6日(金)～ 令和2年1月27日(月)
	連続講演会 「幕末キーパーソン 龍馬をめぐる人々」 「勝海舟と龍馬をめぐる幕臣たち」 (講師:樋口雄彦氏)	高知県立坂本龍馬記念館	令和元年12月14日(土)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
高知県立埋蔵文化財センター	113	参加者からは、昔の人々のものづくりの知恵や技術に関心する感想が寄せられました。また、自分の手で作り上げたことに関しての満足感も得られているようで、リピーターも多い講座となっています。
高知県立歴史民俗資料館	4,058	寺宝の他に700年記念法要の記録や講演会等を通じて、吸江寺の歴史や様相について理解を深めてもらうとともに、禅宗の文学的な一面について知ってもらうなど、県内外の多くの方に関心をもってもらうことができました。
高知県立坂本龍馬記念館	33,934	当館にとって初めての国指定重要文化財の展示と、現存する龍馬の佩刀5振りを展示し、多くの注目を集めた。中でもオンラインゲーム「刀剣乱舞」に登場する「吉行」目当ての女性の来館が目立ち、新たな客層の開拓に繋がった。
高知県立埋蔵文化財センター ※記念講演会のみ 高知市立自由民権記念館	1,064	これまであまり知られていない土佐の鎌倉時代の様子に、遺跡の発掘調査成果や文献史料などからせまる展示と講演会を行いました。展示観覧者や講演会参加者の感想から、地域の歴史への興味関心が高いことをうかがうことができました。
イオンモール高知・ 1Fセントラルコート	93	半透明のビニールバッグにモールや目玉などのパーツをくっつけ、中にピカピカ光るLEDをセットして、まるでモンスターのような光るキャンディバッグを作りました。ハロウィンイベントへのお出かけにぴったりな、お子さんならではのオリジナリティー溢れる作品が会場を賑わせました。定員を上回る大盛況で、多くのお子さんたちにものづくりに触れていただく機会となりました。
高知県立坂本龍馬記念館・ 新館ホール	70	幕末の重要人物5人をテーマにした講演会シリーズの3回目。西郷隆盛について、落合弘樹氏(明治大学教授)にお話しいただいた。西郷の人物像だけでなく、当時の政治状況など、学術的な講演会として充実したお話をしていただくことができた。
高知市文化プラザ かるぼーと他	3,460	かるぼーとをメイン会場として、県内高等学校文化部長が展示や舞台発表等を披露した。今年は「2020こうち総文」プレ大会開会行事として、選抜バンドの式典演奏や、文化部長発表を含む構成劇、京町帯屋町のパレード等で観客を魅了した。
高知県立坂本龍馬記念館	846	本館のイラストを描いた奈路道程氏に似顔絵を描いてもらうコーナーが大人気。他、龍馬の衣装で記念撮影するコーナーや重ね押しスタンプなど、館内全体がにぎわった1日となりました。
高知県立高知城歴史博物館	1,330	おめでたい図柄の美術品、あわせて館蔵・寄託の国宝・重要文化財を展示、鑑賞方法を丁寧に解説した。日本美術の多様性、技術の高さをご覧いただくとともに、子どもから大人まで幅広い層に鑑賞の楽しさを知っていただく機会となった。
高知県立坂本龍馬記念館・ 新館ホール	82	幕末の重要人物5人についての講演会シリーズの4回目。勝海舟を中心に幕臣について、樋口雄彦氏(国立歴史民俗博物館教授)にお話しいただいた。海舟だけでなく、あまり知られていない幕臣のお話もあり、「知らない人の話もあった」と好評だった。

◎協賛行事

※ 記載内容は原則として事業実施報告書の記載に則しています。
 ※ 開催日（部門別）の順に掲載しています。 ※ 参加者数は、芸術祭会期中内での集計となります。

部門名	行事名	主催団体	日 程
演劇	空晴（からつぱれ） 第18回公演「明日の遠まわり」	（公財）高知市文化振興事業団	令和元年9月14日（土）～9月15日（日）
	舞台「君ハ嗤ウ」	ショープロジェクト	令和元年10月4日（金）～10月6日（日）
	高知こいこいパネルシアターまつり	高知こいこいパネルシアター まつり実行委員会	令和元年11月24日（日）
舞踊・ダンス	Modern Ballet Studio SPROUT 発表会	Modern Ballet Studio SPROUT	令和元年9月29日（日）
	三津喜代会追善舞踊	三津喜代会	令和元年11月3日（日・祝）
	第66回内山時江モダンバレエ公演 誰もやれないことをやるvol.3 「くるみ割り人形とねずみの王様」	内山時江モダンバレエ研究所	令和元年11月9日（土）
音楽	高知フライデーウィンドアンサンブル 第38回 定期演奏会	高知フライデーウィンド アンサンブル	令和元年9月15日（日）
	午後の音楽会 第35回 声楽レクチャーコンサート	高知音楽協会	令和元年9月21日（土）
	琴伝流大正琴第29回西日本大会	琴伝流大正琴中国本部	令和元年9月25日（水）
	「キッズ オータム パーティー in かるぽーとキャンプ場」	（公財）高知市文化振興事業団	令和元年10月12日（土）～10月13日（日）
	Music Wonderland 2019 in 天然色劇場	Music Wonderland 実行委員会	令和元年10月13日（日）
	松村紫乃&グループ琴 定期演奏会 音夢の彼方「永遠の燈コンサート」	松村紫乃&グループ琴	令和元年10月25日（金）
	高知コンサート・グループ 第67回定期演奏会	高知コンサート・グループ	令和元年10月26日（土）

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
高知市文化プラザかるぽーと・小ホール	165	大阪に拠点を置く小劇団「空晴」の新作公演を劇団と高知市文化振興事業団が共催で開催しました。身近なテーマで笑いあり、涙ありのテンポ良い舞台に観客は引き込まれ、次回も高知公演をとの声が多く寄せられました。
蛸蔵	362	初公演で350人以上のお客様に観劇していただけた。特に演劇を見に行ったことがない方にも多数来場いただけた。アナウンスに高校生、EDに高知の若手バンドを起用するなど、「高知で頑張る若手に活躍の場を提供する」という活動趣旨も概ね実行できたと思う。
薫の会館（薫の神社内）	300	パネルシアターを3世代で楽しみ、会場全体が家族になることができた。全国で活動している劇団が一堂に会し公演し、交流することで、コミュニケーション能力・自己表現能力の向上につながった。
高知市文化プラザかるぽーと	1,000	第1部「四季を踊る」 第2部「ラプンツェル」
高知市文化プラザかるぽーと・大ホール	568	午前10時30分開演午後6時30分終演という8時間におよぶ舞踊会になりました。追善舞踊3曲、三津喜代会19曲です。その中には連獅子、鶯娘、蝶の道行、櫓のお七など大曲も含まれています。上演中、大きなトラブルもなく、盛会に終えることが出来ました。
高知県立美術館ホール	151	「くるみ割り人形とねずみの王様」をホフマン原作の新作創作作品として発表、少人数でありながらもダンサー各自の個性を活かした構成で上演し、幅広い客層から指示を得ることが出来ました。
高知市文化プラザかるぽーと・大ホール	851	吹奏楽の3部ステージ構成で実施しました。1部はクラシックステージ、2部は音楽物語「となりのトトロ」の世界観を映像・朗読・音楽で表現しました。3部は、ポップスステージとし演奏会を行いました。
高知県立美術館ホール	200	クララ・シューマンの生誕200年記念でロベルト・シューマンと二人の歌曲とピアノソロ、女声合唱の演奏と共に曲の解説をまじえての音楽会でした。歌詞も見て下さり、なごやかな演奏会になりました。
高知市文化プラザかるぽーと・大ホール	300	西日本各地より29団体出演58曲演奏。多くの方々に大正琴のアンサンブルを聞いていただき大正琴の楽しさ、良さを理解いただいた。
高知市文化プラザかるぽーと・大ホール	320	出演団体の多種多様な音楽、雷雨やスカイダンサー（大きく膨らむ人形）等の演出に、驚きや歓声を上げる場面もあり、子ども達は、終始にぎやかで、あらかじめ準備していた珍しいドリンクは全て売り切れてしまいました。
香南市天然色劇場	265	今回で4回目の開催でした。約10.5時間野外フェス 高知のミュージシャン17組出演してもらい無事に開催することができました。ジャンルも洋楽・邦楽など色々なジャンルの音楽を来場者にお届けでき盛り上がりしました。今後も継続して実施予定です。
高知県立美術館ホール	359	邦楽停滞の中、琴・三絃・尺八伝統音楽を守る為グループ一同頑張って毎年芸術祭参加公演をしています。グループのテーマ曲「永遠の灯火」は、観客を引き込む良い演奏を披露できたと自信を持って言えます。
高知県立美術館ホール	255	お客様と楽しんだコンサート、会場から度々の「ブラボー」の声を聞く中、演奏者も客席も一体となり、秋の夜長を楽しんだコンサートとなりました。終演後、ロビーには沢山のお客様があふれ、演奏者達と今夜の感想など語り合いいつまでも立ち去りがたい姿を見て、今年の定期演奏会の成功を確認しました。

部門名	行事名	主催団体	日 程
音楽	下八川圭祐記念 第43回高知音楽コンクール	(公財)高知新聞厚生文化事業団	令和元年11月3日(日・祝)
	第5回ヤマハジュニアピアノコンクール ～ 高知・西地区予選大会 ～	ジュニアピアノコンクール 実行委員会	令和元年11月3日(日・祝)
	高知コーラス含笑団 第61回定期公演	高知コーラス含笑団	令和元年11月4日(月・振休)
	いの混声合唱団 第40回定期演奏会	いの混声合唱団	令和元年11月23日(土・祝)
	都山流尺八高知県支部 令和元年度 定期演奏会	都山流尺八高知県支部	令和元年11月24日(日)
	第27回高知県民謡まつり	高知県民謡協会	令和元年11月24日(日)
	高知交響楽団 第163回定期演奏会	高知交響楽団	令和元年12月15日(日)
美術	中田耕一展 和紙と墨の世界	香美市立美術館	令和元年9月7日(土)～ 10月14日(月・祝)
	第28回のいち動物公園 写真コンテスト作品展	(公財)高知県 のいち動物公園協会	令和元年9月8日(日)～ 11月4日(月・振休)
	いの町紙の博物館特別展 野並允温個展	いの町紙の博物館	令和元年9月23日(月・祝)～ 10月20日(日)
	小さな布の表現者 伊与木潤子展 昭和の時を駆ける創作押絵の世界	香美市立美術館	令和元年10月26日(土)～ 12月22日(日)
	市制施行60周年記念 第60回室戸市美術展覧会	室戸市教育委員会・ 室戸市文化協会	令和元年10月29日(火)～ 11月4日(月・振休)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
のいちふれあいセンター・ サンホール	200	県内唯一の総合的クラシック音楽コンクールで、打楽器、弦楽器、管楽器、声楽、ピアノの部門があります。今年は一般13名、高校生13名、合わせて26名の方から参加申し込みがあり、下八川賞2位、3位、高知音楽奨励賞、合わせて10名が受賞しました。
四万十市立文化センター・ 大ホール	150	15才以下のピアノ学習者コンクール地区予選会。日頃の練習の成果を披露できる場として、又、審査員の先生の講評もあり、学習の場ともなったと思います。金賞受賞者の中より4名を四国大会へ推薦させていただきました。
高知市文化プラザかるぼーと・ 大ホール	832	昨年、記念の第60回定期公演を無事終了し、今年は気持ちも新たに「たびだち」をテーマとして公演を行いました。企画面でも工夫をし、マンドリン土曜日会様によるマンドリンとの共演を行い多くのお客様に喜んでいただきました。心配していました来場者数も昨年の記念公演を上回り、大変良かったです。
高知市文化プラザかるぼーと・ 大ホール	830	第40回に因み、思いで深い作品をプログラム。平井三世代(平井康三郎、丈一郎、秀明)の合唱曲も好評。地元、伊野中学校吹奏楽部の賛助もあり、コーラスとプラスのハーモニーも楽しめた。
高知市文化プラザかるぼーと・ 小ホール	80	「三曲演奏」を県民の皆さんに広くご紹介することを目的に開催しました。演奏曲は尺八曲が4曲、糸方との合奏曲が6曲、合わせて10曲としました。尺八独奏曲、少人数や多人数での合奏曲を演奏いたしました。演奏の形式に変化を持たせました。会員の吹奏力にも向上の跡が見られ、糸方のご協力も得て内容のある演奏会となりお客様に楽しんでいただけたと思います。
高知県立美術館ホール	250	民謡協会加入団体が参加し、7団体の三味線・尺八・太鼓に合わせて唄うオープニングに始まり、全国の民謡を中心に、それぞれの団体の特徴を活かした、三味線・尺八・太鼓の演奏やその伴奏に合わせての唄や踊りを披露しました。
高知市文化プラザかるぼーと・ 大ホール	635	プログラム3曲のうちの2曲でハープ2台使用という、視覚的にも贅沢な演奏会でした。日本を代表する若手指揮者の佐々木新平氏の豊かな表現力で「高響史上最高の演奏会」という感想をたくさんいただきました。
香美市立美術館	1,000	今回の展覧会は、これまであまり例のない表現で、いわゆる水墨画とは違って独自の内容と表現に説得力があり、多くの共感を得た。社会的テーマと、市井の人々が同列に並ぶことで作者の人格が伝わり好評であった。
高知県立のいち動物公園・ どうぶつ科学館	11,027	9歳～86歳まで97名、231点の応募があり、審査で選ばれた入選作品61点を展示した。特に高校生の作品は、動物の見方、捉え方、構図の工夫も個性的で新鮮、面白く、タイトルも自由で楽しいものとなった。
いの町紙の博物館	2,628	画家の野並允温氏と、同氏が主催する向陽会絵画教室の作品を展示した。作品は土佐和紙に水彩画を描いており、多くの来館者に同氏・同会の作品および土佐和紙をPRすることができた。 また、会期中は野並氏に展示室に常駐してもらっており、似顔絵コーナーなどを通して来館者との交流を図ることができた。
香美市立美術館	3,135	昭和の古き良き時代を偲ぶような伊与木潤子の押絵は、その作業の細やかさと巧みな人物描写で多くの観客を魅了し、特に高齢の方々は大いに活性化され、これまで美術館に縁のなかった人達にも足を運んでもらえる企画となった。
室戸勤労者体育センター	530	公募展を開催し、洋画の部19点、日本画の部11点、書道の部(漢字)23点(仮名・調和体)12点、写真の部33点、陶芸の部31点、彫塑・工芸・デザインの部19点、漫画の部8点の応募があり、各部門ごとに審査後、展示を行った。 決して多くない出品数だったが、審査員や来場者から作品の質の高さを讃えるお言葉を多く頂いた。

部門名	行事名	主催団体	日 程
美術	第18回高知連合選抜展覧	安芸市書道振興協議会	令和元年11月10日(日)～12月15日(日)
	第25回潮風のキルト展	(特非)NPO砂浜美術館	令和元年11月15日(金)～11月18日(月)
	公募作品展 第21回OURギャラリー展	(公財)やなせたかし記念 アンパンマンミュージアム 振興財団	令和元年11月16日(土)～ 令和2年1月13日(月・祝)
	土佐の和紙に画展	中土佐町立美術館	令和元年11月28日(木)～12月27日(金)
映画	シネマな夜VOL. 236「幸福なラザロ」	シネマ・サンライズ	令和元年10月23日(水)
文芸	後期企画展 わが點鬼簿 ～忘れ得ぬ人々～	香美市立吉井勇記念館	令和元年7月10日(水)～12月1日(日)
	しきなみ短歌の世界(初めての短歌教室)	家庭倫理の会・高知	令和元年11月3日(日・祝)
伝統文化	正曲一絃琴白鷺会 秋の演奏会	正曲一絃琴白鷺会	令和元年10月5日(土)
	第20回名流吟剣詩舞道大会	高知県吟剣詩舞道総連盟	令和元年10月12日(土)
	八代青年奉納歌舞伎	八代青年会	令和元年11月5日(火)
	第73回秋季いけばな県展	高知県華道協和会	令和元年11月9日(土)～11月10日(日)
	伝統文化音楽 地唄、箏曲、尺八本曲演奏会 「紀元2679年 令和元年 祝賀演奏」より	琴古流尺八竹童社藤寿会 高知支部	令和元年11月23日(土・祝)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
安芸市立書道美術館	582	高知県内16書道団体を代表する書家195人の個性あふれる多彩な作品が展示され好評であった。 また、2回行われた解説会には多くの参加者があり、他団体のさまざまな作品を鑑賞することで、勉強の場としての評価も得た。
砂浜美術館 (高知県黒潮町・入野松原) 雨天会場および最終日: ふるさと総合センター	3,000	潮風のキルト展は、各地から応募のあった全70作品を松原へ展示、審査員のPatch-Work-Lifeさんとの企画展では風景をパッチワークしたモダンキルトの紹介をした。期間中は、出店やワークショップ、箏の演奏や野点を企画し、約3000名の来場者を楽しんでもらった。4日間のうち、雨に見舞われた18日以外は、雲一つない快晴の下、赤紫色の花が咲くらっきょう畑ともに、秋の砂浜美術館の風景を満喫してもらうことができた。
香美市立やなせたかし記念館・別館	2,763	今回は4歳から92歳まで246点の作品が寄せられ、会場には全応募作品を展示した。関連イベントとして審査員の島本須美さんによる読み聞かせ朗読会もおこなった。来場者によるアンケートには、それぞれの個性が出ていてよかったなどの感想が寄せられた。
中土佐町立美術館	385	来館者からも好評で、各作家とも紙をより意識した制作に取り組むことができ、次に繋がる可能性を感じるとともに、作品を通して、高知と京都の作家交流ができたように思う。
高知県立美術館ホール	111	「夏をゆく人々」でカンヌ映画祭審査員グランプリ賞を受賞したイタリアの新鋭女性監督アニーチェ・ロルヴァケル監督の作品を、高知で初めて紹介することが出来た。 ヴィスコンティ、パゾリーニなどイタリア映画史の巨匠たちの系譜に連なる作家性を持った監督。寓話的で素朴な話ながら、聖書におけるラザロの扱いについて予備知識がないと、意味のわかりにくい作品だったかもしれない。
香美市立吉井勇記念館	462	展示期間中、幅広い年齢層の方々にご来館いただき、吉井勇の幅広い交友関係や、様々な人々との交流が彼の人生にどのような影響を与えたのかについて知っていただく機会となりました。
高知市立自由民権記念館・研修室	36	講師の話に興味深く聞いて下さった。日々の暮らし、自然の美しさ、孫への思い、夫婦愛、中学生からは試合への意気込み、母への感謝など感動あふれる作歌に共感し合い温かい和やかな教室となった。短歌を身近に感じていただくという主旨が達成できた。
高知市文化プラザかるぼーと・小ホール	135	文化庁伝統文化親子教室事業でお稽古をされた生徒保護者の皆さんにも演奏を披露して頂きました。演奏に効果音を入れたり合奏で尺八も入る事でいつもとは違う演奏会になりました。来年度は創立70周年を迎えます。これからも益々精進して参りたいと思います。
高知県立美術館ホール	500	県連盟21会派による、2年に1度開催している。吟と舞の祭典です。今回で20回目を迎え、令和を祝って「酒物語」や「時代を彩った人々」など7部構成で特に今回は、幼少年、青年の部を多くし、満席ですばらしい大会となりました。
八代八幡宮 回り舞台	300	当日は例年通りの賑わいで、寒い中でも多くのお客さんが最後まで芝居をご覧になった。さらに、2018年に本事業が「日本の祭り」にて取材・放送頂いた影響からか、例年に比べて取材数も多く、注目を集めていることが伺えた。
高知市文化プラザかるぼーと7階 第1・第2展示室	2,014	会期中、大作13、小品111、子ども18の計142点のいけばな作品を展示いたしました。2,014名の方々にご来場いただき、無事終了しました。
高知県立歴史民俗資料館	31	50席を準備し計画通り開演した。開演曲の視聴者は10名程度で最終的には例年程度の視聴数であった。令和初年の祝賀演奏と題し若干の入場増を期待したが結果的には例年より少なかった。引き続き継続したいと存じます。

部門名	行事名	主催団体	日 程
伝統文化	徳島県立阿波十郎兵衛屋敷公演 & ワークショップ 阿波人形浄瑠璃公演 in 安田町	安田町教育委員会	令和元年11月23日(土・祝)
総合文化	第15回 四万十市文化祭	四万十市文化祭執行委員会	令和元年8月18日(日)～12月15日(日)
	第14回香美市芸術祭	香美市芸術祭実行委員会	令和元年10月1日(火)～11月24日(日)
	令和元年度 第48回高知県教育文化祭	高知県教育文化祭運営協議会	令和元年10月4日(金)～12月15日(日)
	第24回宿毛市オールドパワー文化展と女のまつり	宿毛市教育委員会 宿毛市老人クラブ連合会 宿毛市文化協会	令和元年10月18日(金)～10月20日(日)
	放送大学高知学習センター 芸術文化祭2019	放送大学高知学習センター	令和元年11月1日(金)～11月2日(土)
	第46回いの文化祭	伊野地区文化協会	令和元年11月2日(土)～ 11月3日(日・祝)
	第25回日高村文化祭	日高村文化推進協議会	令和元年11月3日(日・祝)
	第12回さかわ・酒蔵ロード劇場2019	第12回さかわ・酒蔵ロード劇場 2019実行委員会	令和元年11月16日(土)

会 場	参加者数(人)	行事内容と成果等
安田まちなみ交流館・和	35	公演では、旧柏原邸を活かした竹本友和嘉氏、鶴澤友輔氏、青年座の舞台作りが素晴らしく、大夫体験・人形操り体験では参加者から大きな笑い声が起こり、出演者・参加者が一体感をもつような公演となった。
四万十市立文化センター 四万十市立中央公民館 その他	10,360	今年度の文化祭は、8月18日～12月15日までの期間で35団体が参加し、約10,360人の入場者数がありました。初参加団体もあり、昨年度より入場者数が増え、事故などなく無事に終了することができました。
香美市立中央公民館 香美市役所 ブラザ八王子ほか	俳句会・短歌会 (10月5日)18 写真審査会 (10月1日)20 社交ダンス 発表会 (10月14日)200 芸能大会・ 土佐山田会場 (11月17日)219 文化展 (10月19日、20日) 754 土佐山田町合唱団 定期演奏会 (11月24日)200	香美市芸術祭は香美市文化協会員をはじめとし、多くの一般参加者により、日頃の文化活動の成果を発表する場と共に、各会場にご来場いただいた多くの住民のみならず、文化芸術の交流を深める場として盛大に開催されました。
高知市文化プラザかるぼーと 高知県教育センター オーテピア高知 高知工科大学永国寺キャンパス 土佐御苑 中小企業会館多目的ホール 須崎市立市民文化会館 高知ちばさんセンター 四万十市立文化センター 夜須中央公民館 付属幼稚園・中学校	8,500	県下各地で音楽会やコンクール、研究発表会、作品展など多彩な15の行事を開催し、今年も子どもたちの文化活動を讃えるとともに、彼らの輝く姿を多くの県民の皆さんに見ていただき、感動を伝えることができました。
宿毛市立宿毛文教センター	宿毛市 オールドパワー 文化展263 女のまつり250	60歳以上を対象とした文化展と宿毛市老連女性部が歌や舞踊、和太鼓など練習の成果を披露する、「女のまつり」と呼ばれる発表会。文化展の出品数は95点。女のまつりは17演目の発表があった。
放送大学高知学習センター	130	美術展覧会、ワークショップ(ペーパークイリング・句会)、バザー、サークル・同好会による催しなどを開催しました。来場者数が昨年の94名から大幅に増え、各催しも大変好評でした。アンケートでは多くの方から「これからも続けてください」という励ましのお言葉を頂きました。
芸能部門：いのホール 展示部門：伊野公民館	300	日本舞踊など30団体17種類の出演。新しくストレッチ体操などの2団体や小学生の落語、日本舞踊などが加わって実施された。また生花、絵手紙など6団体6種類の展示があり、展示物を見てくれだけでなく各部署に説明員を置くなどの工夫を行った。
日高村社会福祉センター	329	今期も幅広い年代の方が出演し素晴らしい発表で観客を賑わせていました。文字通り会場が揺れた環頭太鼓の気迫や、笑いが絶えなかった小学生による土佐弁朗読など充実した文化祭になりました。参加者数は昨年を大きく上回る329名となりました。
佐川町上町地区 さかわ・酒蔵の道一帯	6,000	佐川町の観光資源である上町地区の「酒蔵の道」を町民をはじめ、町外の方にもまず知っていただき再度来ていただきたい。そんな思いを伝える目的は、ある一定の成果は期待している。また、県内の作家さんの作品発表の場ともなっており、来場者から高い評価をいただきました。

<資料>

共催・協賛行事参加申請書

第1号様式

2019年度第69回高知県芸術祭参加申請書

高知県芸術祭執行委員長 様

団体名(行事主催団体)
住所
代表者氏名

2019年度高知県芸術祭に、下記の行事を(共催・協賛)行事として申請します。
なお、参加行事として認められた場合、行事についてガイドブック、インターネット等(Facebook、Twitter)などのSNSを食わず、その情報提供、公開について御願いいたします。

③部門
④行事名
⑤日程
⑥会場名
⑦入場料等
⑧主催者
⑨連絡先
⑩Eメールアドレス

第2号様式

団体の概要

(会則、規則、組織図など団体の概要が詳しく分かる資料があれば提出してください)

①(ふりがな)団体名
②(ふりがな)代表者氏名
③団体住所
④TEL
⑤FAX
⑥主な活動内容

2019年度第69回高知県芸術祭ガイドブック等 原稿

◆下記欄に必要事項をお書きください。
◆欄が足りない場合は別紙でもかまいません。①から⑤まで番号をつけてお書きください。

①行事名称
②(ふりがな)主催団体名等
③開催日時
④会場名・所在地
⑤入場料・参加費等

2019年度第69回高知県芸術祭ガイドブック等 原稿

⑥行事の紹介文(100字以内)
⑦その他
⑧写真・動画

高知県芸術祭執行委員会 委員名簿

(任期:平成29年4月1日～令和2年3月31日)(委員長・副委員長以下、五十音順・敬称略)

役職	氏名	所属職名等
委員長	新納 朋代	(株)テレビ高知編成営業局編成業務担当部長
副委員長	井奥 和男	(公財)高知県文化財団理事長
委員	上本 竹永	高知県文化協会事務局長
委員	奥野 克仁	高知県立美術館学芸課長兼石元泰博フォトセンター長
委員	北村 真実	NPO法人こうち音の文化振興会理事長
委員	高橋 英生	高知県立県民文化ホール館長
委員	津田 加須子	高知県立文学館学芸課長
委員	溝渕 博彦	NPO高知文化財研究所代表
委員	森田 佳余	(公財)高知県観光コンベンション協会プロモーション部チーフ
委員	吉岡 一洋	高知大学人文社会科学系教育学部門准教授

文芸賞審査員

短編小説	杉本 雅史 米沢 朝子 若江 克己	短歌	市川 敦子 梶田 順子 中野 百世	俳句	植田 紀子 橋田 憲明 味元 昭次
------	-------------------------	----	-------------------------	----	-------------------------

川柳	小笠原 望 窪田 和広
----	----------------

※五十音順、敬称略